公益財団法人古代学協会

2022（令和４）年度　年報

2023（令和5）年

公益財団法人　古代学協会

目　次

Ⅰ　古代学協会について

1．設立の趣旨と目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2．古代学協会の歴史 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　管理・運営概要

1．理事・監事・評議員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
2．名誉理事長・顧問・参与 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
3．職　員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
4．組　織 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
5．施　設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

Ⅲ　令和４（2022）年度　事業概要

1．理事会・評議員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
2．決　算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
3．角田文衛博士顕彰事業
（1）「角田文衛古代学奨励賞」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
4．研究事業
【古代学協会による個人・共同研究】
（1）仁和寺 文書調査資料のデジタル化による平安時代史料の研究 ・・・・・・・14
（2）日本の後宮の研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
（3）陵墓研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
【科学研究費助成事業による研究】
（1）古代中国の東北フロンティア開発と玄菟郡・楽浪郡・・・・・・・・・・・・・15
（2）五一広場東漢簡牘よりみた後漢時代の在地社会・・・・・・・・・・・・・・・16
（3）弥生時代高地性集落の列島的再検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
（4）初等・中等教育における考古学的活動に関する基礎的研究
学校考古学史の構築に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
5．『古代文化』刊行事業
（1）編集委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
（2）『古代文化』の刊行　第 74 巻第１号～第４号 ・・・・・・・・・・・・・・・24
6．普及事業
（1）公開講座等
1）古代学講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
2）顕彰碑の設置及び除幕式 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

3）歴史散策 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
4）公開講演会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
（2）広報物の出版 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
（3）資料等の活用・管理・整理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
7．その他
（1）ホームページ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
（2）公式 Facebook ページ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

・所蔵資料一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
・令和 4 年度　交換・寄贈逐次刊行物一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42

古代学協会について

1．設立の趣旨と目的

角田文衞博士（1913 ～ 2008）は、考古学と文献学を総合した古代史研究の新しい方法論を樹立すべく、「古代学」という学問体系を提唱。これまでにないアカデミックな学術雑誌『古代学』の刊行は、その高度な体裁や内容において当時の日本の学界に少なからず影響を与えた。角田博士は世界史的視野のもと、考古学・文献学の双方を駆使して、理論ならびに個別研究を生涯にわたり情熱的に推進し、また学史研究にみられるように先人の業績を大いに尊重する一方、熱心に後進の古代史研究者を育成した。古代学協会創設の中心となり主導してきた角田博士は古代学協会そのものであると言っても過言ではなく、逝去後は博士を顕彰するとともに、博士の理想を受け継いだ研究を継続するための諸事業（季刊誌『古代文化』および研究報告の刊行、将来ある若手研究者の助成を目的とした「角田文衞古代学奨励賞」、公開講演会、共同研究、各個研究など）を通じて学術文化の向上・発展に寄与することを目的として活動を続けている。また、角田博士顕彰事業の一環として遺贈資料の整理や第二著作集の刊行、深く古代史を学びたいとの意欲ある市民を対象とした「古代学講座」の開催、一般読者にも読みやすい連絡誌「土車」の刊行も進めている。

2．古代学協会の歴史

昭和 26 年（1951）

10 月　古代学協会創立（事務所・大阪市立美術館内）。

昭和 27 年（1952）

1 月　季刊誌『古代学』創刊号（第 1 巻第 1 号）刊行。

昭和 28 年（1953）

10 月　福井県二上遺跡において、古代学協会初の発掘調査実施。

昭和 30 年（1955）

12 月　古代学協会設立発起人会開催。

昭和 32 年（1957）

1 月　民法第 34 条による財団法人古代学協会認可。本部所在地を大阪市立美術館として登録。初代理事長梅田良忠、常務理事角田文衞、山県忠次郎就任。

4 月　古代学協会東京支部開設。引き続き、昭和 37 年に仙台支部〔のちに東北支部〕開設・広島支部〔のちに中国支部〕開設、昭和 40 年に札幌支部〔のちに北海道支部〕、名古屋支部〔後に東海支部〕、福岡支部〔後に九州支部〕開設、昭和 62 年に四国支部、昭和 63 年に北陸支部をそれぞれ開設。

10 月　季刊誌『古代学』のサロン的雑誌として月刊誌『古代文化』を創刊。

11 ～ 12 月　勧学院跡発掘調査（中京区西ノ京勧学院町・姉坊城児童公園）を実施。

昭和 34 年（1959）

10 ～ 12 月　大極殿跡発掘調査を実施（上京区千本丸太町小山町・内野児童公園内）。

昭和 35 年（1960）

12 月　古代学協会京都事務所の土地、建物購入（京都市下京区下鴨上川原町）。

昭和 37 年（1962）

10 月　大分県丹生遺跡第 1 次発掘調査開始（最終年〔第 6 次〕昭和 42 年〔1967〕）。

昭和 40 年（1965）

11 月　紫式部邸宅跡（廬山寺境内内庭）に顕彰碑建立除幕式挙行。

昭和 41 年（1966）

5～6 月　売却予定であった旧日本銀行京都支店の建物の保存と活用希望を日本銀行に申し入れ全国募金による資金での購入が決定。

昭和 42 年（1967）

4 月　旧日本銀行京都支店の土地、建物を日本銀行より有償譲渡を受け、同地に京都事務所を移転し、平安博物館を創設（初代平安博物館館長に角田文衛常務理事が就任）。

9 月　本部所在地を、大阪市立美術館内より旧日本銀行京都支店に移転、京都事務所を閉鎖。

11 月　平安博物館土曜講座を開始（昭和 43 年〔1968〕以降は古代学講座と改称し、毎日開講することとなる）。

昭和 43 年（1968）

5 月　三笠宮崇仁親王殿下、同妃殿下の台臨を仰ぎ、平安博物館開館式挙行。

7 月　平安博物館の建物が、京都府登録博物館の第 1 号に登録される。

9 月　大島本源氏物語（青表紙本、53 帖、国指定重要文化財）が平安博物館に収蔵される。

昭和 44 年（1969）

3 月　平安博物館の建物（旧日本銀行京都支店本館と金庫）が重要文化財に指定。

4 月　平安博物館友の会結成。初代会長に塚本幸一（ワコール社長）就任。

10 月　日本考古学協会昭和 44 年度大会が、平安博物館において開催される。初日、開催反対の学生デモ隊乱入、機動隊に逮捕される。

昭和 47 年（1972）

3 月　季刊誌『古代学』、第 18 巻第 2 号をもって休刊。

昭和 48 年（1973）

4 月　平安京跡発掘調査本部の設置（昭和 57 年まで）。

昭和 49 年（1974）

11 月　清少納言顕彰・歌碑建立（泉涌寺境内）。除幕式挙行。

昭和 52 年（1977）

4 月　広報誌『土車』第 1 号を刊行（以後現在まで継続）。

5 月　古代学協会創立 25 周年・平安博物館設立 10 周年記念式典挙行（平安博物館会議室）。記念特別展「北ヨーロッパの新石器文化展」開催。

昭和 56 年（1981）

9～12 月　エジプト・アコリス遺跡（中部エジプト、ミニア県テヘネ村）第 1 次発掘調査開始（最終年〔第 12 次〕平成 4 年〔1992〕）。

昭和 58 年（1983）

10 月　京都府京都文化博物館の創設に協力するため、平安博物館本館建物とその敷地を除く北側土地を京都府に譲渡。

昭和 60 年（1985）

12 月　エジプト・アコリス遺跡発掘調査のための拠点・調査団宿舎「ドムス平安」完成。

昭和 61 年（1986）

３月　古代学協会の施設、平安博物館閉館。平安博物館友の会解散決定。

４月　京都府の京都文化博物館創設に協力するため、平安博物館の土地・建物・府下京北町黒田所在の収蔵庫用地、多数の図書、研究資料等を京都府に寄附。並びに博物館の機能、発掘調査出土遺物を移管。

８月　京都府は、京都文化財団設立。その経営にかかる京都府京都文化博物館の新築工事着工。

10 月　古代学協会職員のうち、一部を除く全員が京都文化財団へ移籍。

昭和 63 年（1988）

９月　古代学協会の本部事務所は、京都府京都文化博物館別館の復元工事完了に伴い現在地に戻る。

古代学協会は附属施設平安博物館を改組して古代学研究所を設立。

10 月　京都府京都文化博物館開館。

平成元年（1989）

12 月～翌１月　イタリア・ポンペイ遺跡予備調査実施（イタリア、カンパニア州ポンペイ市）。

平成２年（1990）

６～７月　山岳寺院・如意寺跡（第１次）地上調査開始（如意寺調査会への協力）。

10 ～ 12 月　イタリア・ボンペイ遺跡第１次地上調査開始（最終年〔第３次〕平成４年〔1992〕）。

平成３年（1991）

10 月　古代学協会創立 40 周年記念学術講演会と、第１回シンポジウム開催〈「山岳寺院の諸問題」。

平成５年（1933）

９～12月　イタリア・ポンペイ遺跡第１次発掘調査開始（最終年〔第 14 次〕平成 19 年〔2007〕）。

平成６年（1994）

４月　平安建都 1200 年記念『平安時代史事典』（角川書店）刊行。

６月　平安建都 1200 年記念『平安京提要』（角川書店）刊行。

９月　仁和寺所蔵文書、典籍類の調査開始。

平成７年（1995）

２月　エジプト・アコリス遺跡発掘調査総括報告書『AKORIS』（英文）刊行。

９月　西方古典文化研究所（イタリア・ポンペイ市）開設。

平成８年（1996）

５月　大島本源氏物語（重要文化財）影印本刊行。

平成 10 年（1998）

３月　「初期王権の総合的研究」開始（平成 15 年『古代王権の誕生』〔角川書店〕全４冊刊行まで）。

平成 11 年（1999）

11 月　年誌『仁和寺研究』第１輯刊行。（第５輯　平成 17 年〔2005〕まで刊行）。

平成 13 年（2001）

12 月　古代学協会創立 50 周年記念行事挙行。学術公開講演会（京都新聞文化ホール）、式典、祝宴開催（京都ホテル・翠雲の間）。

平成 17 年（2005）

12 月　『古代文化』第 57 巻第 12 号（通巻 563 号）をもって一時的に停刊。

平成 18 年（2006）

10 月 京都大学教授の山中一郎氏に、『古代文化』編集の要請を行い、月刊誌から季刊誌に変更。第 58 巻の刊行を再開。

12 月 古代学研究所の閉鎖。

平成 19 年（2007）

4 月　古代学協会内において編集委員会を再編成し、新たに『古代文化』第 59 巻の刊行を始める。

9 月　古代学協会ホームページを開設。

10 月 共同研究「仁明朝史の研究」開始（平成 22 年度まで）。

平成 20 年（2008）

3 月　支部組織（北海道・東北・東京・北陸・名古屋・中国・四国・九州）廃止。

5 月　角田文衛博士逝去。

平成 21 年（2009）

3 月 「角田文衛先生を偲ぶ会」を開催（於：京都ホテルオークラ・暁雲の間）。

平成 22 年（2010）

11 月 ポンペイ遺跡発掘調査の集大成『POMPEII Report of the Excavation at PortaCAPUA 1993 − 2005』（英文）刊行 。 国際シンポジウム「ポンペイとオスティア古代ローマ都市発掘の最前線」開催。日本大学文理学部史学科、神戸大学人文学研究科海港都市研究センター、京都大学大学院工学研究科建築学専攻、上智大学文学部史学科との共催（於：キャンパスプラザ京都）。

平成 23 年（2011）

2 月　角田文衛監修・財団法人古代学協会編『仁明朝史の研究』〔思文閣出版〕刊行

4 月　会友・会員制度を改正、会友を正会員に移行し、新たな会員規程を制定。
「古代学講座」を再開。

10 月 古代学協会創立 60 周年記念行事挙行。角田文衛古代学奨励賞第 1 回授賞式。記念講演 上田正昭先生「角田古代学の発展的継承を目指して―60 周年によせて」（於：京都ホテルオークラ・暁雲の間）。

12 月～翌 2 月 「古代学協会所蔵　古文書・古典籍の世界展」開催（於：京都文化博物館）。

2 月　講演とシンポジウム「列島における初期稲作の担い手は誰か」開催（於：福岡市アクロス福岡）。

平成 24 年（2012）

3 月　公開研究会「弥生文化の始まりを問い直す―その担い手はだれか？―」開催（於：同志社女子大学　今出川キャンパス）。

4 月　朝日カルチャーセンター京都・古代学協会共催講座の開催（平成 27 年まで）。

平成 25 年（2013）

２月　佛教大学四条センター提携講座開始（令和元年度まで）。

４月　内閣総理大臣の認定を受け、「財團法人古代學協會」を解散し、「公益財団法人古代学協会」として、新たなスタートをきる。

平成 26 年（2014）

３月　下條信行監修・（公財）古代学協会編『列島初期稲作の担い手は誰か」〔すいれん舎〕刊行

平成 29 年（2017）

10 月『角田文衞の古代学』刊行開始。「４角田文衞自叙伝」刊行。

平成 30 年（2018）

７～９月　「平安博物館回顧展　古代学協会と角田文衞の仕事」開催（於：京都文化博物館）。

８月　「平安博物館回顧展―古代学協会と角田文衞の仕事―」記念シンポジウム（京都文化博物館と共催）「世界の博物館史と平安博物館　―ICOM（国際博物館会議）京都 2019 を据えて―」開催（於：京都文化博物館別館ホール）。

10 月『角田文衞の古代学１　後宮と女性』刊行。

森岡秀人・（公財）古代学協会編『初期農耕活動と近畿の弥生社会』〔雄山閣〕刊行。

令和元年（2019）

８月　公益財団法人移行後、初めての独自開催による公開講演会の開催。

定款を変更し、収益事業としての駐車場の管理に関する事業を廃止。

９月　シンポジウム「京の翠とわざの粋－緑釉陶器と緑釉瓦－」（京都文化博物館と共催）を開催（於：京都文化博物館別館ホール）。

令和２年（2020）

４月　新型コロナウイルスの感染拡大のため緊急事態宣言が発出。これにより事業に大きな影響を受けた。古代学講座は、６月まで休講。７月から感染症予防対策を施して再開した。

９月　令和２年度京都府地域交響プロジェクトの申請が採択され、補助金の交付を受けた。これに伴い「古代宮都歴史散策事業」がスタートした。

10 月　古代宮都歴史散策第１回　「伏見深草古寺跡を訪ねて」開催。参加人数 34 名。

11 月　古代宮都歴史散策事業第１回講演会「平安京邸宅群の居住者像をめぐって－長岡京・平安京の最新成果から－」を開催（於：ハートピア京都大会議室）。

令和３年（2021）

２月　古代宮都歴史散策事業の一環として２基の顕彰碑及び説明版の設置及び除幕式を行う。「貞観寺跡－藤原師房の発願－」（深草中学校正門横花壇）、「長岡宮西方の宮殿跡」（美容院ガーデンｉｆ敷地）。

令和４年（2022）

７月　「此の付近　藤原定家一条京極第跡」（京都市立京極小学校花壇内）の顕彰碑及び説明板の設置及び除幕式を行う。

Ⅱ　管理・運営概要

（令和５年７月１日現在）

１．理事・監事・評議員

理　　事（７名）		
（理事長）	朧谷　　壽	同志社女子大学名誉教授
（理事長補佐）	山田　邦和	同志社女子大学教授
（業務執行理事）	麻森　敦子	（公財）古代学協会
（業務執行理事）	山﨑　千春	（公財）古代学協会
	佐々木達夫	金沢大学名誉教授
	浅野伊都子	
	竹居　明男	同志社大学名誉教授
監　　事（２名）	左納　徹郎	元（公財）古代学協会事務局長
	徳永　　裕	元（公財）古代学協会経理主任
評 議 員（６名）		
（評議員会長）	福岡　美彦	（公社）日本ＷＨＯ協会理事
	絹川　　定	（株）公成建設取締役相談役
	西村　　勝	柊屋（株）代表取締役社長
	森田　雅之	京都成蹊法律事務所所長
	吉田　　章	三菱京都病院名誉顧問
	野﨑　貴典	古典の日推進委員会アドバイザー

２．名誉理事長・顧問・参与

名誉理事長	大坪　孝雄	王子ホールディングス（株）社友
顧　　問	坂詰　秀一	立正大学名誉教授
	白石太一郎	国立歴史民俗博物館名誉教授、近つ飛鳥博物館名誉館長
	中井　義明	同志社大学名誉教授
	下條　信行	愛媛大学名誉教授
	米田　雄介	元正倉院事務所所長、神戸女子大学名誉教授
	澤田　瞳子	小説家
参　　与	吉川　真司	京都大学大学院教授

3．職　　員

【研究部】　研究部長：山田　邦和

研究員：古藤　真平

客員研究員：森岡　秀人、平田　健、市川　創、辻村　純代、田中　俊明、山中　章、　飯田　祥子、清水　みき

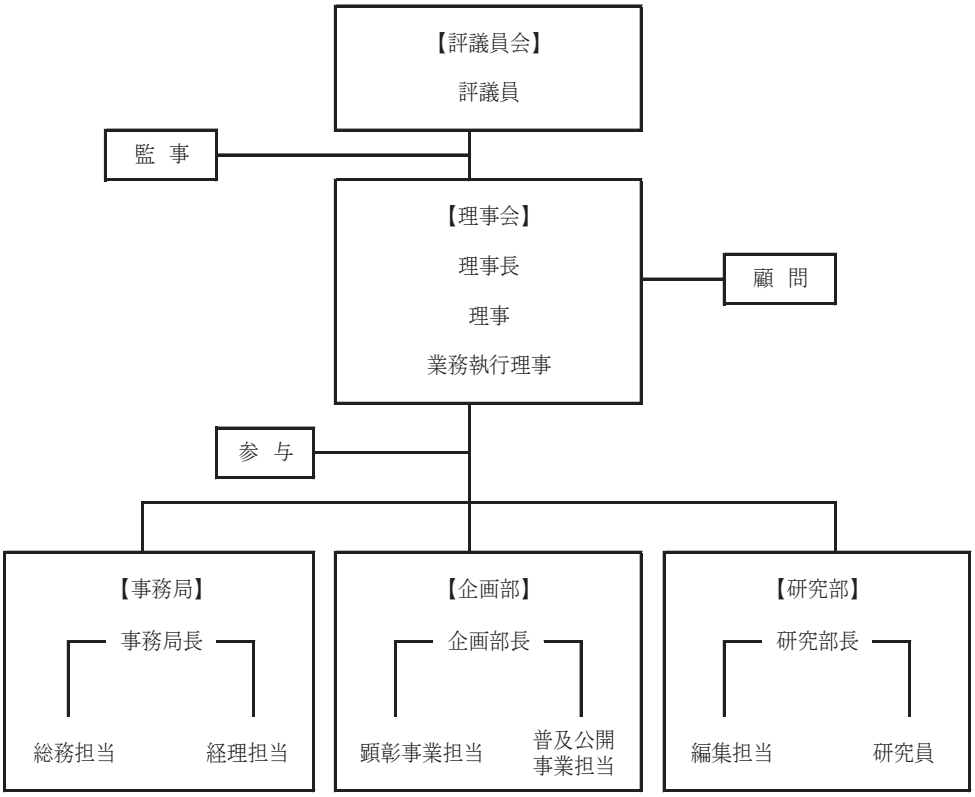
横大路綾子

【事務局】　事務局長：麻森　敦子

企画部長：山﨑　千春

志谷紀美子、竹内　千津

4．組　　織



5．施　　設

京都文化博物館別館（旧日本銀行京都支店）

所在地：京都市中京区三条通高倉
西入ル菱屋町 48 番地

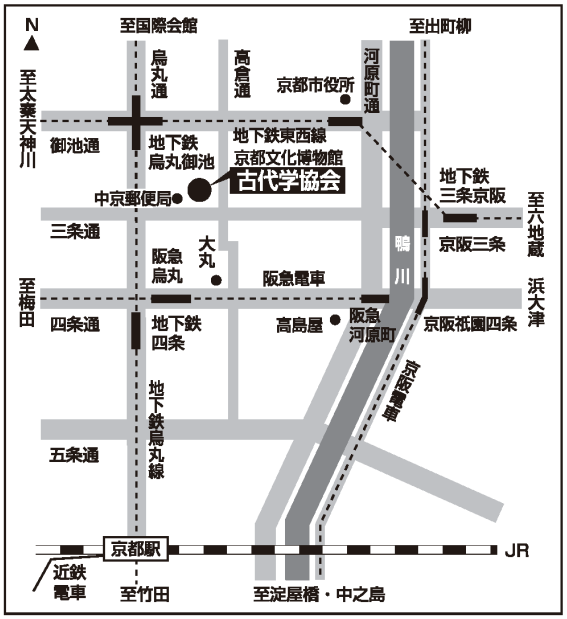
1906（明治 39）年に日本銀行京都支店として建設されたこの建物は、当時日本第一の設計者といわれ、日本銀行本店、東京駅などを設計した、東京帝国大学工科大学教授辰野金吾博士が日本銀行建築部技師長の長野宇平治博士と共に設計した。辰野式ルネサンスの名で呼ばれた彼の様式が発揮された建物である。

1965（昭和 40）年に日本銀行京都支店の移転に伴い、1967（昭和 42）年 4 月、当協会が日本銀行より旧店舗と敷地約 1800 坪を有償譲渡され、平安博物館として 1968（昭和 43）年 5 月オープンした。

1969（昭和 44）年 3 月、重要文化財に指定されている。
（煉瓦造、建築面積 884．1 平方メートル、二階建、一部地下一階、スレート葺、両翼塔屋付。袖塀付属附旧金庫、1 棟　石造、建築面積 181.0 平方メートル、一階建）

1986（昭和 61）年 4 月、文化財指定物件の永久的保存を願った当協会は、この建物を京都府に移管し、1988（昭和 63）年 10 月からは京都府京都文化博物館別館として活用され、その一部で当協会は業務を行うこととなった。

このあたりは、『六角堂縁起』によると、1200 年あまり前、愛宕郡折田郷土車里（おたぎぐんくしだのごうつちぐるまのさと）と呼ばれていたと言う。これにちなみ、古代学協会だよりは『土車』とした。この地名は桓武天皇の平安遷都以来なくなってしまい、平安時代は、左京三条四坊四町にあたる。後期には後白河天皇の皇子・以仁王や皇女・式子内親王の邸宅、高倉宮となった。



施設平面図（京都文化博物館別館）

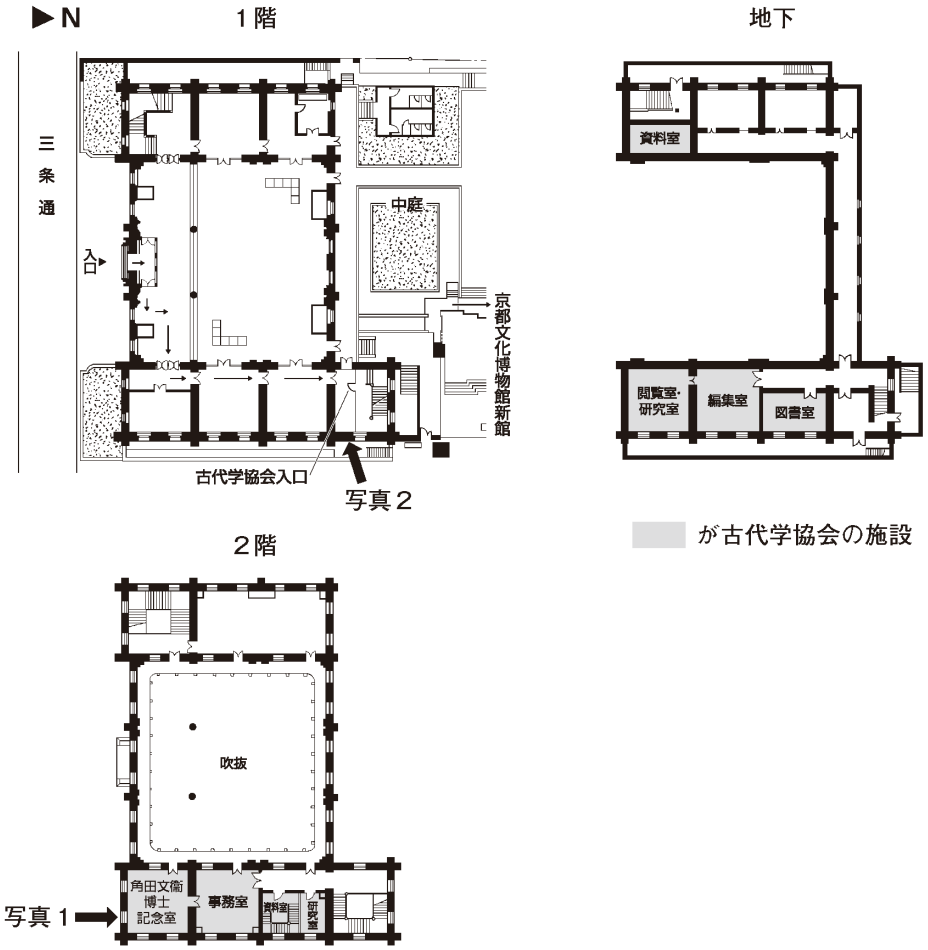


写真１　角田文衛博士記念室

写真２　入口から左：事務室へ　右：地下研究室へ

Ⅲ　令和４（2022）年度事業概要

１．理事会・評議員会

（1）理事会の開催

1）令和４年度第１回定例理事会（令和４年５月 27 日）

〔主な議決事項〕

・令和３年度事業報告（案）

・令和３年度決算報告（案）

・令和４年度定時評議員会招集通知（案）

・辞任に伴う監事候補（案）

２）令和４年度第２回理事会（令和５年２月 24 日）

〔主な議決事項〕

・令和５年度事業計画（案）

・令和５年度収支予算（案）

・資金調達及び設備投資の見込みについて

・特定資産の特定預金（指定正味財産及び特定費用準備資金）の取り崩しについて

・研究事業に対する特定費用準備資金積立について（案）

・公益財団法人古代学協会理事　職務権限規程（案）

・公益財団法人古代学協会　組織規程（案）

・顧問及び参与（案）

（2）評議員会の開催

1）令和４年度定時評議員会（令和４年６月 17 日）

〔主な議決事項〕

・令和３年度決算報告（案）

・辞任に伴う監事候補（案）

2．決　　算

貸借対照表の要旨

（令和5年3月31日現在）　　（単位：千円）

資産の部		負債及び正味財産の部	
流　動　資　産	27,784	流動負債	5,938
固　定　資　産	398,741	固定負債	
基本財産	1,200	**負債合計**	5,938
特定資産	306,112	指定正味財産	85,539
その他固定資産	91,429	（基本財産充当額）	1,200
		（特定資産充当額）	84,339
		一般正味財産	335,049
		（基本財産充当額）	
		（特定資産充当額）	221,773
		正味財産合計	420,588
合　計	426,525	**合　　計**	426,526

正味財産増減計算書の要旨

自　令和4年4月 1日
至　令和5年3月31日

（単位：千円）

科　　目	金　額
経常収益	21,300
経常費用	28,476
（うち事業費）	26,402
（うち管理費）	2,074
経常外収益	0
経常外費用	3,098
法人税、住民税及び事業税	70
当期一般正味財産増減額	△10,344
当期指定正味財産増減額	△8,000

３．角田文衞博士顕彰事業

（１）「角田文衞古代学奨励賞」

〔賞の趣旨〕

平成 22 年に当協会が創立 60 周年の年を迎えたことを記念し、当協会の創立者・故角田文衞博士の名を冠した角田文衞古代学奨励賞を創設。

本賞は、季刊『古代文化』への投稿原稿の中から秀作を選んで表彰し、古代史研究の奨励と若手研究者の支援を意図するものである。令和２（2020）年度より隔年の選考となったため令和４年度の選考はおこなわなかった

〔角田文衞古代学奨励賞歴代受賞者

◆第１回（2011 年 10 月）

東村純子氏（日本学術振興会特別研究員〔国立民族学博物館〕）

「輪状式原始機の研究」（第 60 巻第１号、2008 年６月）

土口史記氏（日本学術振興会特別研究員〔京都大学人文科学研究所〕）

「先秦期における「郡」の形成とその契機」（第 61 巻第４号、2010 年３月）

◆第２回（2012 年 10 月）

樋口健太郎氏（大手前大学非常勤講師）

「藤氏長者宣下の再検討」（第 63 巻第３号、2011 年 12 月）

◆第３回（2013 年 10 月）

中村耕作氏（國學院大學文学部助手）

「土器カテゴリ認識の形成・定義―縄文時代前期後半における浅鉢の展開と儀礼行為―」（第 64 巻第２号、2012 年９月）

◆第４回（2014 年 10 月）

久米舞子氏（国際日本文化研究センター　プロジェクト研究員）

「平安京『西京』の形成」（第 64 巻第３号、2012 年 12 月）

◆第５回（2015 年 10 月）

関根章義氏（仙台市教育委員会生涯学習部文化財課主事）

「古代陸奥国における陶硯の受容と展開―城柵官衙遺跡を中心として―」（第 66 巻第３号、2014 年 12 月）

◆第６回（2016 年 10 月）

藤山龍造氏（明治大学文学部准教授）

「砥石から読み解く骨角器生産―栃原岩陰遺跡を中心に―」（第 66 巻第１号、2014 年６月）

◆第７回（2017 年 10 月）

本庄総子氏（日本学術振興会特別研究員〔奈良女子大学〕）

「奈良時代の解由と交替訴訟」（第 68 巻第２号、2016 年９月）

◆第８回（2018 年 10 月）

家原圭太氏（京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課技師）

「平安京の邸地分布と園池」（第 68 巻第３号、2016 年 12 月）

◆第 9 回（2019 年 10 月）

板垣優河氏（京都大学大学院文学研究科博士後期課程・日本学術振興会特別研究員）

「石器使用痕からみた打製石斧の機能－縄文時代生業の復元に向けて－」（第 69 巻第 2 号 2017 年 12 月）

◆第 10 回（2021 年 10 月）

鶴来航介氏（福岡市経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課）

「泥除の系列」（第 71 巻第 4 号、2020 年 3 月）

（所属は受賞時）

４．研究事業

【古代学協会における個人研究・共同研究】

（1）〔研究課題名　仁和寺文書調査資料のデジタル化による平安時代史料の研究

〔研究代表〕　古藤真平（古代学協会　専従研究員）

①研究の目的

日本史・日本仏教史の研究に貢献する意図を込めて、古代学協会が平成６～17年度に行った仁和寺文書調査で蓄積した資料をデジタルデータ化し、学術的な内容紹介を付する形式で整備することを目的とする。将来的には、総本山仁和寺から理解を得つつ、同寺と共同で学界・一般に公開することを目指している。データ整備を行う対象は、平安時代の仁和寺の歴史に関する史料及び平安時代史一般の研究に資する史料を含む書物の調査資料とする。

②令和４年度の研究概要

本研究の研究費と古藤が令和３年度から仁和伝法所から受給している研究費とを合わせて、古代学協会の平成６～17年度の調査で撮影したモノクロフィルムのデジタル化を進めている。令和３年度は171本、４年度は208本をJPGファイル化した。約550本あるモノクロフィルムの約2/3をデジタル化できたことになる。但し、画像データを書物一点ごとに整理する作業の本格的着手については、令和５年度以降の研究課題に送ることとした。

上記に加えて、仁和伝法所が刊行を計画している総本山仁和寺版『仁和寺研究』に協力する活動の一つとして、「仁和寺編年史料」続編の作成に当たっている。令和４年度は延喜11年～20年（911～920）の史料編年を進めた。

③令和４年度の主な研究成果発表

〈論文等〉

古藤真平「阿衡事件　宇多天皇と藤原基経の政争だったのか」（上島享・告井幸男ほか編著『論点・日本史学』、ミネルヴァ書房、2022年８月）

古藤真平「橘広相―学者官人から天皇の側近へ―」（新古代史の会編『人物で学ぶ日本古代史３　平安時代編』、吉川弘文館、2022年12月）

古藤真平「古代学協会所蔵『魚魯愚鈔』に記された前九年の役の行賞」（『土車』第146号、古代学協会、2022年12月）

〈発表〉

古藤真平「『宇多天皇御記』の践祚・即位・賀茂臨時祭創祀の記事と『大鏡』の物語」（講演、2022年11月８日、真言宗御室派香川宗務支所講習会〔会場：総本山仁和寺御室会館〕

（2）〔研究課題名〕日本の後宮の研究

〔研究組織〕山田邦和（古代学協会　研究部長）、吉川真司（京都大学大学院教授、古代学協会参与）、岡島陽子（古代学協会プロジェクト研究員）

①研究の目的

当協会創始者である角田文衛博士（2008年没）が1973年に學燈社より刊行した『日本の後宮』は古代から近代までの後宮の通史であり後宮研究には欠かせないものであった。現在にい

たるまで他にはこのような研究書は刊行されていない。しかし当該書籍は大判で高価（出版当初38,500円）なものとなっており、出版社の學燈社もすでに倒産しているため手に入りにくい。よって、日本の後宮研究に資すべく『日本の後宮』の普及版の刊行を柱とし、加えて、角田文衛博士が初版刊行後、加筆した記述を検証し、適宜補訂を行い、補注や解題を加えての決定版とすることを本研究の目的とする。

②令和４年度の研究概要

角田文衛著『日本の後宮』（學燈社、昭和48年）のOCRテキストデータと刊行本の本文、註及び図版註のデータについて異同を確認。編集註のつけ方、現在の研究とのずれの対応策を検討。

（3）陵墓研究

陵墓関係１６学協会の一員としての活動

②令和４年度の活動概要

・2022年度陵墓関係16学協会全体会議参加

日程：2022年７月14日（木）

場所：慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟B会議室

・畝傍陵墓監区事務所建替工事予定区域（事前調査）限定公開参加

日程：2022年12月９日（金）

・誉田御廟山古墳（応神天皇 恵我藻伏岡陵）立入調査参加

日程：2023年３月３日（金）

③令和４年度の成果発表

森岡秀人「叡福寺北古墳（皇太子聖徳太子磯長墓）宮内庁書陵部墳丘事前発掘調査見学（限定公開）手記」『古代文化』第74巻第１号、2022年

【科学研究費助成事業による研究事業】

（１）〔研究課題名〕古代中国の東北フロンティア開発と玄菟郡・楽浪郡

(平成29年度～令和２年度　基盤研究（B)、課題番号17H04526)

〔研究代表〕田中俊明（古代学協会客員研究員）

〔研究分担者〕徐光輝（龍谷大学教授）

①研究の目的・経緯

古代における中国諸王朝の東北フロンティア開発の先端基地であった遼東郡・玄菟郡・楽浪郡の県城が現在中国遼寧省・吉林省から北朝鮮を経て韓国に分布する。研究目的は開発をあとづけることであり、そのためこれら諸郡各県城の位置・立地・規模・構造・年代、及び県城相互間の交通路について知ることである。

遼東郡についてはすでに現地調査を進めてきた。最終年度の令和２年度には玄菟郡・楽浪郡を主たる対象にして現地調査を行い、また最新情報を集め、開発それ自体と在地勢力との関係について検討したいと考えていた。しかしコロナ禍のために中国および韓国の調査が不可能になり、代わりに楽浪の影響や伝達ルートの確認をめざし国内の関連遺跡等の調査を進め、次年度に繰り越しして次年度での調査をめざした。それを３年・4年へと継続したが、結局、4年度まで中国・

韓国調査は実施できなかった。また、中国・韓国の研究協力者を招請して討論会を開く予定でいたがそれも実現しなかった。

多伎神社（今治市）

②令和４年度の研究概要

11 月に広島から愛媛・香川にかけての瀬戸内海航路の調査をした。また滋賀県の観峰館において楽浪郡？蝉県神祠碑拓本を調査し内容を紀要 17 号に発表した。

亀老山展望台（今治市）

11 月 19 日

高諸神社（福山市）・素盞嗚神社・吉備津神社（新市）・寺町廃寺・みよし風土記の丘・県立歴史民俗資料館（三次市）

11 月 20 日

永納山山城・来住廃寺・久米官衙跡・三津港・愛媛県美術館（松山）

11 月 21 日

一宮神社（新居浜市）・多伎神社（今治市）・亀老山展望台・大山祇神社（瀬戸内しまなみ海道）

③令和４年度主な研究成果発表

〈論文〉

田中俊明「朝鮮三国と渤海の宮廷苑池」『宮廷苑池の誕生』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・特別展図録、2022 年

田中俊明「朝鮮半島の六世紀 ―百済の中興と新羅の台頭」『アジア人物史』2、集英社、2023 年

田中俊明「朝鮮三国の国家祭祀」『アジア遊学』280、2023 年

〈学会発表〉

田中俊明「高句麗中期王都集安をめぐるいくつかの問題」韓国国立文化財研究院『高句麗都城景観と防禦体系の新たな認識』

田中俊明「百済武寧王をめぐるいくつかの問題」朝鮮史研究会大会、2022 年

（2）〔研究課題名〕五一広場東漢簡牘よりみた後漢時代の在地社会

（令和元年度～令和４年度　基盤研究（C）、課題番号 19K01027）

〔研究代表〕飯田祥子（古代学協会客員研究員）

〔研究分担者〕角谷常子（奈良大学教授）、鷲尾祐子（立命館大学非常勤講師）、髙村武幸（明治大学専任教授）

①研究の目的

後 2 世紀初頭の行政文書史料群を読解し、それにより得た知見をもとに、後漢王朝時代〔25 ～ 220 年〕の在地社会を理解する。従来、後漢時代の同時代史料は少なく、後代の編纂文献史料に依拠せざるを得なかった。この時代、豪族の勢力が拡大し、在地社会は不安定化し、行政機構の機能不全がおこったとされるが、それは往々にして成立年代の遅い文献にみえる類型的描写に基づいていた。今世紀に発見された長沙五一広場東漢簡牘は、この史料的問題を解消する可能

性がある。この史料群は、後漢中期に地方統治をおこなう役所で作成され、事件処理に関わる内容を含む。貴重な同時代史料であるだけでなく、行政機構によって把握された、または把握から逸脱しようとする社会を直接知ることができる。史料群自体は局地的な事象を記すに過ぎないが、地方行政機構は中央で決定された政策を実行する。それゆえ本史料群を手がかりに、文献史料にみえる中央の政策を再検討することで、中央からみた後漢時代の在地社会の課題を具体化し、社会のありようとその変動を把握することが可能であり、ひいては古代統一国家解体の背景を知ることにつながる。

②令和 4 年度の研究概要

五一簡の統計的な検討を体系的に行うため、既発表史料データベースの精度を高めるべく、再整理を行った。里耶秦簡等との比較の上、機能分類を導入し、文書・簿籍等の大分類以下、5 層に細分した。また釈文の修正情報や、簡のサイズ・材質等についても一括して管理できるようデータベースのフォーマットを再構築した。

輪読会はオンラインで月 2 回、安定的に開催し、第 2 層出土簡および第 3 層出土簡の一部（③71 番台）まで読解した。第 2 層出土簡については「長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（七）（八）暫定版」として HP 五一広場東漢簡牘研究会に公開した。また研究協力者の研究報告会を開催し、『参』九二四簡を標題とする冊書を通読した。

研究課題である「在地社会」のありかたに関わる流動人口に関する専論「五一廣場東漢簡牘にみる後漢中期の人の移動と管理」（『東洋史研究』81-1、2022 年）を刊行した。この論文を通して中央の政策と「在地社会」に対する地方官府の働きかけの関係を検討する必要が明らかになったので、「後漢中期の地方統治姿勢―五一広場東漢簡牘を手がかりとして」を執筆した。

中央の地方統治政策や政治動向との関連を再検討すべく、代表者自身の既発表論文の見なおしを行い、『漢新時代の地域統治と政権交替』（汲古書院、2022 年）を刊行した。

五一簡の理解には、隣接する地域から出土した走馬楼呉簡の知識を欠くことができないが、呉簡に関する論文集の書評「伊藤敏雄・関尾史郎編『後漢・魏晋簡牘の世界』」（『日本秦漢史研究』23、2022）を執筆する機会に恵まれた。

なお、令和 4 年度が最終年度であったが、期待されていた史料（『五一広場東漢簡牘』七・八）の刊行が遅れているという状況をかんがみ、期間を延長した。

③令和 4 年度の主な研究成果発表

〈論文〉

飯田祥子「五一広場東漢簡牘にみる後漢中期の人の移動と管理」『東洋史研究』81-1、2022 年

飯田祥子「（書評）伊藤敏雄・関尾史郎編『後漢・魏晋簡牘の世界』」、『日本秦漢史研究』23、2022 年

鷲尾祐子「長沙における居民管理制度の変遷―漢から三国呉までの里―」『東洋史研究』81-2、2022 年

鷲尾祐子「走馬楼呉簡吏民簿諸類型の比較検討」、東京外国語大学アジアアフリカ研究所研究課題「中国古代簡牘の横断領域的研究」ホームページ領域的研究」ホームページ http://www.aa.tufs.ac.jp/users/Ejina/note/note45(Washio).html　2022 年

鷲尾祐子「（書評）大澤正昭『妻と娘の唐宋時代 史料に語らせよう』」『女性史学』32、2023 年
鷲尾祐子「（書評）多田麻希子著『秦漢時代の家族と国家』」『史学雑誌』131-10、2022 年
〈学会発表〉
飯田祥子「後漢中期の地方統治姿勢」中国古代簡牘の横断領域的研究、2022 年
飯田祥子「五一廣場東漢簡牘竹簡文書の整理」中国古代簡牘の横断領域的研究、2023 年
鷲尾祐子「三世紀長沙における女性のライフサイクル」女性史総合研究会、2022 年
〈図書〉
飯田祥子『漢新時代の地域統治と政権交替』（汲古叢書 178）、汲古書院、2022 年 12 月
〈web 公開〉
五一廣場東漢簡牘研究會「長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（七）（②:30 ／一三三～②:57-18 ／一七九）暫定版」https://goitinokai.jimdofree.com/　2022.08.29
五一廣場東漢簡牘研究會「長沙五一廣場東漢簡牘譯注稿（八）（②:58-8 ／一八九～③:268-2+291-46+ ②:125 ／二一七一 + 五七八〇 + 二三一）暫定版」
https://goitinokai.jimdofree.com/ 2023.03.27

（3）〔研究課題名〕弥生時代高地性集落の列島的再検証
（令和 2 年年度～ 5 年度、基盤研究（B）、課題番号：20 H 01356
〔研究代表者〕森岡秀人（古代学協会客員研究員・奈良県立橿原考古学研究所共同研究員）
〔研究分担者〕桑原久男（天理大学）、若林邦彦（同志社大学）、伊藤敦史（京都大学）、
國下多美樹（龍谷大学）柴田昌児（愛媛大学）、田畑直彦（山口大学）、
寺前直人（駒沢大学）、　森　貴教（新潟大学）、山本　亮（東京国立博物館）、
宇佐美智之（京都芸術大学）
※所属は令和 5 年 3 月 31 日時点
研究協力者：九州北部～関東・東海・北陸、及び海外の地域研究者総勢 47 名
①研究の目的
日本列島における弥生時代高地性集落の研究は、近年の弥生社会の研究動向全体とも深く関わって、歴史的評価が著しく多様化し、大きな転換期を迎えている。とりわけ、多くの中国史書上に記述された「倭国乱」「倭国大乱」と時期が遊離する実例が増加するなど、年代論を根幹とする歴史の大きな枠組みの瓦解に起因する問題が各地で生じている。しかし、これまでに多くの発掘調査成果・研究業績がこの数十年蓄積されてきた分野であるだけに、それらを無にし、振り出しに戻るのは生産的とはいえない。そこで、本研究では、既存の考古学的知見と方法論、豊かな見聞、経験を基盤としつつ、パラダイム転換に不可欠な特徴的資料の再整備と問題点の克服を目途とした基礎研究を行うことで、新たな視座を創出する。今後の弥生社会、高地性集落研究の指針とすべき集落論の再構築を目指すとともに、小野忠熙らが半世紀前に鋭意進めた全国的検討との比較や進展状況も明示する。また、枢要地域の高地性集落の現在のデータベースの整備と共有化を行い、向後の恒久的な共同研究の足掛かりを作る。
②令和 4 年度の研究の概要
行動制限下、可能な限り高地性集落の現地踏査と過去の出土資料の再検討。とりわけ概念や定

義のキーポイントになる遺跡を選択した。 本科研経費の一部助成で行っている新潟大学考古学研究室主体の長岡市赤坂遺跡の発掘調査現場を視察し、弥生後期後半の北陸圏最大幅の環壕遺構と出土遺物（法仏式期）を確認した。関連して北陸側の要所では、越後（村上市山元遺跡、新潟市古津八幡山遺跡）、加賀（金沢市観法寺遺跡・観法寺墳墓群）、越前（鯖江市弁財天遺跡）などの現地調査を進め、紀伊（和歌山市橘谷遺跡・滝ヶ峯遺跡）の現地並びに遺物調査も行った。また、和泉市惣ヶ池遺跡の整理中遺物の調査 を実施し、石川県埋蔵文化財センターや新潟市文化財センター、金沢市文化財収蔵庫、和歌山市立博物館にて関連資料を調べた。交流の証左となる外来系土器に ついては、とくに庄内式最新相の動向が近畿圏の下限の評価とも絡む紀伊産大和型庄内形甕の確認例が滝ヶ峯遺跡出土資料中に存在していた。貝塚・貝層の形成 地点と生息域がどのように関わるのか、西日本全体の志向性とも比較しつつ、地域性や遺跡間差の合理的説明への足掛かりを得た。また、近畿後期社会の鉄器化 の証しとなる砥石の分析も深化させた。個別調査としては、天理市豊田山遺跡、別所裏山遺跡の土器を再検討した。地理情報システム（GIS）を活用した高地性集 落の眺望・立地分析では、神戸市スポーツ・文化財課や新潟大学と共同で立地の有効性や機能などをそれぞれ発掘調査報告書に執筆、反映させた（城ヶ谷遺跡第 4 次・赤坂遺跡第 2 次）。眺望性に言及するとともに、遺跡消長と銅鏡出土分布研究から弥生後期前葉に有機的な集落の結びつきがあることを明らかにしできた。そ の他、中間発表として、『古代文化』第 74 巻第 2・4 号（古代学協会）の特輯 (上)（下) 誌上に示し、気候変動論、前期古墳立地論、ヨーロッパ考古学などとの触れ 合い方を模索した。

〈研究会〉

第 5 回研究会

日時：2022 年 8 月 6 日　13：30 ～ 17：30

場所：古代学協会　角田文衛博士記念室（ZOOM によるオンライン併用）

内容：ジョセフ　ライアン（岡山大学）【高地性集落と鉄製武器　刀・剣類を中心に】

　　兪炳琭（中原大學校）【韓国の青銅器時代の高地性集落】

　　通訳　大庭重信（大阪市文化財協会）

　　ロラン・ネスプルス（国立東洋言語文明研究所・フランス東アジア研究所）【高地・丘陵性集落と集落の防禦　新石器時代～金属器時代ヨーロッパにおける集落の進化】

第 6 回研究会

日時：2023 年 3 月 26 日　10：30 ～ 17：30

場所：古代学協会　角田文衛博士記念室（ZOOM によるオンライン併用）

内容：戸塚洋輔【近江の高地性集落】

　　國下多美樹【高地性集落と祭祀―集落内祭祀の高地化と銅鐸埋納（その 1 ）―】

　　田畑直彦【石見西部の高地性集落と西方との関係】

　　【基盤研究（C）弥生時代高地性集落研究の原点を見直す　中間報告－環古柳井水道をめぐる高地性集落について－】

　　安中哲徳【観法寺墳墓群の発掘調査成果について】

〈資料調査・現地踏査等〉

◇ 2022 年 4 月 1 7 日～ 18 日

・資料調査：湊中野遺跡・雲透遺跡・宇木汲田遺跡・桜馬場遺跡（唐津市）（於：古代の森会館）

◇ 2022 年 5 月 23 日～ 24 日

・現地踏査　滝ヶ峯遺跡・橘谷遺跡

・資料調査　　同上（於：和歌山市立博物館）

◇ 2022 年 9 月 2 5 日～ 27 日

・現地踏査：赤坂遺跡（長岡市・新潟大学発掘調査現場）、城の山古墳（胎内市）、山元遺跡（村上市）、古津八幡山遺跡（新潟市）

赤坂遺跡（長岡市）にて新潟大学の発掘調査メンバーと

・資料調査：山元遺跡（於：縄文の里・朝日）、古津八幡山遺跡（於：新潟市埋蔵文化財センター）

◇ 2022 年 10 月 24 日～ 25 日

・資料調査：田和山遺跡、古浦遺跡、友田遺跡、堀部第遺跡、廻田遺跡、門田遺跡、袋尻遺跡、神後田遺跡（於：鹿島歴史民俗資料館）

観法寺遺跡（金沢市）

・松江市歴史館　特別展「古代出雲の中心地・松江」観覧

◇ 2022 年 12 月 19 日～ 21 日

・現地踏査：観法寺遺跡（石川県埋蔵文化財センター発掘調査現場）、弁財天山遺跡（福井県鯖江市）、王山古墳群（鯖江市）

・資料調査：観法寺遺跡（於：石川健埋蔵文化財センター）、弁財天遺跡（於：鯖江まなべの館）

・金沢市埋蔵文化財センター展示施設、金沢市埋蔵文化財収蔵庫（チカモリ遺跡公園）、福井県立歴史博物館　観覧

◇ 2023 年 2 月 28 日～ 3 月 1 日

・資料調査：カネガ谷遺跡　桧はちまき山遺跡、大谷尻遺跡、光祥院寺内遺跡（於：徳島県埋蔵文化財センター）

〈その他〉

・立命館アートリサーチセンター「全国高地性集落のデジタル資料化とデータベース構築 ―弥時代高地性集落の列島的再検証に向けた基礎的研究―」採択

・ホームページの開設　https://yayoikouchisei.jimdofree.com/

・科研活動ニュースレター「弥生時代高地性集落の再検証ニュースレター」7 号・8 号発行

③令和 4 年度の主な研究成果発表

森岡秀人、信里芳紀、河合忍、三好玄、若林邦彦、石丸惠利子、宇佐美智之「特集：弥生系高地性集落の再考論（上）」『古代文化』第 74 巻第 2 号、（公財）古代学協会、2022 年

森岡秀人、桑原久男、山本亮・林大智、ロラン・ネスブルス「特輯『弥生系高地性集落の再考論（下）』に寄せて」『古代文化』第 74 巻第 4 号、公益財団法人 古代学協会、2023 年

森岡秀人「弥生後期社会の実像シンポ　総括コメント③」『古代学研究』233、古代学研究会 2022 年

森岡秀人「寺沢『弥生国家論』のパラダイム的意義と纒向遺跡の含意」『纒向学の最前線―桜井

市纒向学研究センター設立 10 周年記念論集―』桜井市纒向学研究センター　2022 年
森岡秀人「大和・布留遺跡と高地性集落の問題―豊田山遺跡と別所裏山遺跡の立地と消長を中心に（断章）―」『ここまで判った布留遺跡―物部氏以前とその後―』発表資料集、天理市観光協会設立 65 周年記念事業、2022 年
森岡秀人「高地性集落と紀伊産大和型庄内形甕の摘出―和歌山市滝ヶ峯遺跡出土土器の熟覧観察とその成果―」『古墳出現期土器研究』第 9 号、古墳出現期土器研究会、2022 年
森岡秀人「原倭国の形成と纒向遺跡　第 1 部『原倭国』」の形成過程と纒向遺跡　第 2 部『倭国』と『原倭国』の関係とその差異　第 3 部　対談〈森岡秀人・寺沢薫〉」『纒向学からの発信　纒向遺跡から 14 人のメッセージ』（桜井市纒向学研究センター 編）大和書房 、2022 年
森岡秀人「弥生時代後期から終末期の近畿社会と大中集落」『兵庫県立考古博物館研究紀要』第 16 号〔大中遺跡調査研究・活用プロジェクト成果報告〕兵庫県立考古博物館　、2023 年
森岡秀人・宇佐美智之 3.31「眺望分析、遺構・遺物の特質からみた『青谷・城ヶ谷集団』」『城ヶ谷遺跡第 4 次発掘調査報告書』神戸市文化スポーツ局文化財課、2023 年
森岡秀人・桑原久男・宇佐美智之「8. 現地踏査及び UAV・GIS 眺望分析にもとづく赤坂遺跡の立地特性の検討」『赤坂遺跡 2 長岡市島崎川流域遺跡群の研究Ⅲ』（島崎流域遺跡調査団報告第Ⅲ集・新潟大学考古学研究室報告 22）（森貴教編）島崎川流域遺跡調査団、2023 年 3 月
荒木幸治・伊藤淳史・桐井理揮・清水邦彦・瀬谷今日子・戸塚洋輔・中居和志・田中元浩・三好玄・森岡秀人・山本亮・渡邊誠「弥生後期社会の実像―集落構造と地域社会―」『古代学研究』233　古代学研究会、2022 年
寺前直人　8 月 18 日「日本列島における都市なき権力形成を支えた儀礼構造」日仏考古ワークショップ「ヨーロッパと日本との比較考古学－国家形成と文化遺産の保護と活用－」Musée de Préhistoire du Grand-Pressigny
柴田昌児「朝鮮半島系準構造船 (加耶タイプ) の生産と日韓の造船技術」『纒向学研究 ?』第 10 号纒向学研究センター、2022 年
森　貴教 「砥石から読みとる弥生時代の鉄器化－新潟を対象として－」『月刊考古学ジャーナル』No.766、ニューサイエンス社、、2022 年
森　貴教 「＜ 2022 年度秋季シンポジウム報告＞「石器・鉄器からみた新潟の弥生時代－広域的な交流と特質－」」『新潟県考古学会連絡紙』第 134 号、新潟県考古学会、2023 年
森　貴教（編）『長岡市島崎川流域遺跡群の研究Ⅲ　赤坂遺跡２』（島崎川流域遺跡調査団報告第３集・新潟大学考古学研究室調査研究報告 22)、島崎川流域遺跡調査団、2023 年

（４）〔研究課題名〕初等・中等教育における考古学的活動に関する基礎的研究：学校考古学史の構築に向けて
（２020 年度～２024 年度、基盤研究Ｃ、課題番号：21K00979）
〔研究代表者〕平田　健（古代学協会客員研究員）
①研究の目的
1900 年代から現在に至る初等・中等教育（主に中学校及び高等学校）における考古学的活動を（１）ヒト（生徒、教師、研究者)、（２）コト（授業、クラブ活動)、（３）モノ（学校教材）

の３つの視点で再評価し、日本考古学史に位置付けることを目的とする。

その対象地域は日本国内とするが、旧植民地における学校教育も視野に入れ、これまで調査・研究を行ってきた台湾をフィールドに含める。平成 30 年（2018）７月の学習指導要領改訂や、高等教育における考古学専攻生の確保など、初等・中等教育の中で考古学的活動が展開される機会が近年多くなっている。こうした活動の歴史とその背景を明らかにし、複眼的に評価を行うことで、学校考古学史という新たな研究領域を創造する。

②令和４年の研究概要

（１）（公財）古代学協会に寄贈された角田文衛博士遺贈資料中、本研究で対象とする約 2000 枚の写真画像､基礎情報（撮影年月日など）のファイルメー カーへの入力が完了した。その成果は、『角田文衛博士遺贈資料目録 写真資料編』として令和５年度（2023 年度）に公刊予定である。

（２）初等・中等教育で角田文衛らの考古学的活動を指導した山内清男（奈良文化財研究所）と甲野勇(くにたち郷土文化館)旧蔵資料を通じ､具体的な活動を復元した。『考古学ジャーナル』(№783、令和５年年６月）において、「学校における考古学的活動－その歴史と学校所在資料の活用－」を特集として企画。３名の研究者に学校所在資料調査・研究・活用の現状を論述して頂くとともに、明治期から昭和 50 年代までの東京での考古学的活動を論考として発表した。

（３）天理大学附属天理参考館が所蔵する福田型銅鐸複製標本等の調査で、荒谷芳雄（上野製作所標本部）の戦後の活動や、梅原末治との関係を解明した。奈良女子大学では、旧制奈良女子高等師範学校旧蔵、上野製作所標本部考古学模型標本や、大正 15 年（1926）考古学会第３１総会記念品として配布された応神天皇陵側発見水鳥埴輪模造品を調査。水鳥埴輪模造品は彫刻家吉田白嶺の手による原型で、考古学会における芸術家の関与を示す新たな一例の発見となった。令和５年（2023）１ 月に奈良市美術館で開催された「奈良を観る～奈良女子大学コレクション～」に調査成果の一部を提供している。愛媛大学では旧制愛媛県女子師範学校旧蔵『日本種族石器時代人民遺物標本』を調査。井上式地歴標本製作所が明治３０年代に製作・販売していた考古学模型標本の新発見であり、博多人形師による考古遺物 の複製精度の高さを確認することができた。

③令和４年度の主な研究成果発表

平田健「角田文衛博士遺贈資料（九）横浜市矢上谷戸貝塚発掘記念写真」『土車』144 号、2023 年

平田　健「東京郷土資料陳列館旧蔵の考古学模型標本－考古学者･片倉信光による東京市の石器･古墳時代展示について－」『東京都江戸東京博物館紀要』13、2023 年

平田　健・村野正景「京都府立鴨沂高等学校所蔵人種模型標本の生産・販売元について「博多人形師の作った人種模型標本－井上式地歴標本－」補遺」『学校博物館」を成長させる－京都府立鴨沂高等学校所在資料の発見と活用Ⅱ－』、2023 年

平田　健「初等・中等教育における考古学的活動の過去・現在・未来」『考古学ジャーナル』№783、2023 年

平田　健「東京の初等・中等教育における考古学的活動史」『考古学ジャーナル』№783、2023 年

5.『古代文化』刊行事業

発行部数 1,050 部、会員数 728（令和 4 年 3 月末時点）

正会員会費：9,400 円　初年度 7,400 円、院生・学生会費 4,700 円

（1）編集委員会（令和 4 年度）

編集委員 12 名、編集参与 51 名により毎月Ｚ００Ｍによるリモートで編集委員会を開催。会議では、投稿原稿の査読・講評、採否の決定、各号掲載論文の選定等を行い、第 74 巻 1 号～ 4 号までを刊行した。令和 4 年度の編集委員、編集参与は下記の通り。

◇ 編集委員

委員長：山田邦和（同志社女子大学・(公財) 古代学協会理事：日本考古学）

主　任：横大路綾子（(公財) 古代学協会）

古藤真平 ((公財) 古代学協会 : 日本古代史)

高橋克壽（花園大学：日本考古学）

西野悠紀子（女性史総合研究会：日本古代史）

毛利憲一（平安女学院大学 : 日本古代史）

森岡秀人（橿原考古学研究所共同研究員、(公財) 古代学協会客員研究員 : 日本考古学）

吉野秋二（京都産業大学：日本古代史）

大野　薫（立命館大学非常勤講師：日本考古学）

若井敏明 (佛教大学非常勤講師）：日本古代史)

野口　実（京都女子大学名誉教授：日本古代・中世史）

鷹取祐司（立命館大学：中国古代史）

◇ 編集参与

青山和夫（茨城大学）、市大樹（大阪大学）、伊藤雅文（(公財) 石川県埋蔵文化財センター）、今津勝紀 (岡山大学)、大日方克己（島根大学）、川尻秋生 (早稲田大学)、川添和暁 ((公財) 愛知県埋蔵文化財センター)、川本芳昭（九州大学名誉教授）、工藤元男（早稲田大学）、栗原麻子（大阪大学）、車崎正彦 (早稲田大学)、桑原久男（天理大学）、桑山由文（京都女子大学）、小林克（元秋田県埋蔵文化財センター）、今正秀（奈良教育大学）、斎野裕彦 (仙台市教育委員会)、佐々木達夫（金沢大学名誉教授・(公財) 古代学協会理事）、佐々木恵介 (聖心女子大学)、鈴木一有 (浜松市教育委員会)、鈴木景二 (富山大学)、鈴木裕明（奈良県立橿原考古学研究所）、妹尾達夫（中央大学）、関川尚功 (上牧町教育委員会)、田中俊明（滋賀県立大学名誉教授・(公財) 古代学協会客員研究員）、辻秀人（東北学院大学）、寺前直人（駒沢大学）、中沢道彦 (長野県)、中砂明徳（京都大学）、中村大（立命館グローバル・イノベーション研究機構）、中村豊 (徳島大学)、長村祥知（富山大学）、永山修一 (ラ・サール学園)、南雲泰輔（山口大学）、野島永 (広島大学)、長谷川修一（立教大学）、濱田竜彦 (鳥取県地域づくり推進文化財局)、久田正弘 ((公財) 石川県埋蔵文化財センター)、比田井克仁 (中野区教育委員会〉、古市晃（神戸大学）、松木武彦（国立歴史民俗博物館）、松本岩雄 (島根県立八雲立風土記の丘)、三上喜孝 (国立歴史民俗博物館)、宮地聡一郎 (福岡県教育委員会〉、宮本純二（京都橘大学非常勤講師）、村上恭通 (愛媛大学)、村野正景（京都文化博物館）、門田誠一（佛教大学）、柳澤

一男 (宮崎大学)、山中章 (三重大学名誉教授、(公財) 古代学協会客員研究員)、吉川真司（京都大学）　角谷常子（奈良大学）

編集事務：麻森敦子（(公財) 古代学協会）　※所属はいずれも令和３年度末時点

（２）『古代文化』の刊行

第 74 巻 1 号（2022 年 6 月）通巻 628 号

＜論　攷＞

中田興吉：『常陸国風土記』にみえる惣領について

〈特集補遺〉

桑原久男：特輯「東地中海地域における青銅器・鉄器時代移行期」補遺に寄せて

高橋裕子：ギリシアの初期鉄器時代　―青銅器時代終末期以来の社会変動と対外関係

小野塚拓造：「東地中海における青銅器・鉄器時代移行期」を理解するために

〈研究ノート〉

高橋克壽：山口県下松市惣ヶ迫古墳の再検討

菅沼愛語：降嫁が成立しなかった和蕃公主の事例に見る唐代の外交関係

〈註　釈〉

松本満里奈：『小右記』註釈（28）長和 4 年 6 月 1 日～ 2 日条

〈連　載〉

下川達彌：考古学人国記（29）気骨の考古学者　古田正隆（下）―籾圧痕の縄文式土器から―

入江文敏：私の古代学（26）若狭の黎明期における考古学保護活動

森岡秀人：高松塚古墳発掘50周年（２）鎌倉時代の盗掘坑との苦闘―盗掘の手法と燈明皿・瓦器・石造品残欠は何を意味するのか―

近藤好和：『江家次第』にみる朝廷儀礼の式次第（５）即位式（三）

〈報　告〉

森岡秀人：叡福寺北古墳（皇太子聖徳太子磯長墓）宮内庁書陵部墳丘事前発掘調査見学（限定公開）手記

〈図版解説〉

山川守男：埼玉県熊谷市上北浦遺跡出土の岩版

近藤　匠：国史跡西塚古墳の範囲確認調査について

〈書　評〉

前田禎彦：佐々木恵介著『日本古代の官司と政務』

髙橋明裕：大橋信弥著『古代の地域支配と渡来人』

海野　聡：上原真人著『古代寺院の生き残り戦略―資財帳が語る平安時代の広隆寺―』

長谷部将司：水谷千秋著『日本古代の思想と天皇』

市元　塁：門田誠一著『魏志倭人伝と東アジア考古学』

〈新刊紹介〉

西山史朗：市川理恵著『京職と支配　平安京の行政と住民』

飯田祥子：宮宅潔著『ある地方官吏の生涯　木簡が語る中国古代人の日常生活』

高橋克壽：藤井康隆著『濃尾地方の古墳時代』

第 74 巻 2 号（2022 年 9 月）通巻 629 号

〈論　攷〉

福永善隆：前漢後半期における官僚機構の構造の展開
—尚書の展開と三公制の形成を中心として—

野口　優：漢代における矯制と璽書偽造

特輯「弥生系高地性集落の再考論（上）」

森岡秀人：特輯「弥生系高地性集落の再考論（上）」に寄せて

信里芳紀：備讃瀬戸における高地性集落とその背景

河合　忍：中部瀬戸内の高地性集落—土器編年からの再考（岡山県域）—

三好　玄：大阪湾岸の高地性集落—集団組織と集団関係—

中塚　武：樹木年輪酸素同位体比の周期性からみた「高地性集落」の背景

若林邦彦：大阪平野における弥生時代以後の集落移動頻度の検証
—弥生高地性集落理解の前提として—

石丸恵利子：貝塚・貝層の高所形成をめぐる生活集団の性格

宇佐美智之：GIS 眺望分析を用いた高位置集落における眺望域の評価
—中部瀬戸内地域を事例として—

〈研究展望・動向 〉

山本正昭：グスクをめぐる解釈と到達点についての提要—グスク論の現在地—

〈史料紹介〉

戸塚洋輔：滋賀県彦根市稲部遺跡出土帯状漆塗繊維製品の発見と課題

〈註　釈 〉

佃　美香：『小右記』註釈（29）長和 4 年 6 月 4 日・5 日・7 日条

〈連　載 〉

伊藤雅文：私の古代学（27）北陸の古墳研究と地域考古学研究

森岡秀人：高松塚古墳発掘 50 周年（3）極彩色壁画検出の顛末
—1972 年 3 月 21 日正午とその前後—

近藤好和：『江家次第』にみる朝廷儀礼の式次第（6）大嘗会（一）

〈図版解説〉

田川　憲・氏家敏之：加茂宮ノ前遺跡の調査成果

〈新刊紹介〉

劉　揚：大澤正昭著『妻と娘の唐宋時代　史料に語らせよう』

第 74 巻 3 号（2022 年 12 月）通巻 630 号

〈論　考〉

小林　嵩：有角石器の成立と儀礼の系譜

増成一倫：律令制下における借貸の機能と展開

柿沼陽平：隋唐随身符制新探―玄宗即位以前を中心に―
〈特　輯〉
特輯「日本古代の菓子と食文化ー古代菓子の実態解明を中心にー
前川佳代：特輯「日本古代の菓子と食文化ー古代菓子の実態解明を中心にー」に寄せて
宮元香織：古墳から出土した食物形土製品について
宍戸香美；奈良時代における加工菓子の受容
前川佳代：平安時代の菓子と餅―餅餤と餺飥―
森由紀恵：中世前期の聖教にみる歓喜団
土居規美：中国製擂鉢についての一考察－菓子製作に関連して－
島原弘征：平泉におけるトイレ状遺構の分布と性格について
〈注　釈〉
北條暁子：『小右記』註釈（30）－長和４年６月 10・11 日条－
〈連　載 〉
樫田　誠：私の古代学（28）時を超えてつなげる考古学
森岡秀人：高松塚古墳発掘 50 周年（4）短期間に限られた石槨内部調査
―無名の古墳から世界中が知る古墳へ―
近藤好和：『江家次第』にみる朝廷儀礼の式次第 (7)　大嘗会 (二）
〈図版解説〉
三浦武司：福島県川俣町前田遺跡の調査成果―縄文時代後期・晩期の木柱群―
北山峰生：奈良県慈明寺遺跡とその周辺
〈書　評 〉
光川康雄：石川知彦監修 / 和宗総本山 四天王寺編集『聖徳太子と四天王寺』

第 74 巻 4 号（2023 年 3 月）通巻 631 号
〈論　攷 〉
新尺雅弘：近江・石山国分瓦窯からみた藤原宮造瓦供給体制の特質
－藤原宮造営における律令負担の考古学的予察－
宗周太郎：質字考
特輯「弥生系高地性集落の再考論（下)」
森岡秀人：「弥生系高地性集落の再考論（下)」特輯に寄せて
桑原久男：前期古墳の立地と高地性集落
山本　亮：列島東縁の高地性集落・高所立地集落の展開
林　大智：北陸の高地性集落と鉄製武器の普及
―集落動態からの位置づけと鉄製武器の保有形態―
寺前直人：南関東地方の弥生系高地性集落－生業・経済と集団関係－
ロラン・ネスプルス：西ヨーロッパにおける高地・丘陵性 集落と集落の防禦－集落の進化・
変動の比較からみた新石器時代～金属器時代ヨーロッパ（前６千年紀～前１世紀）－
森岡秀人：特輯論攷の論点と総括、研究展望

〈研究ノート〉

小林　卓：ローマ帝政期における太陽神崇拝とミトラス教

〈注　釈〉

並木和子：『小右記』注釈（31）－長和４年６月 12 日条－

〈連　載〉

田嶋明人：私の古代学（29）土器をながめて 50 余年

森岡秀人：高松塚古墳発掘 50 周年 (5) 墳丘調査の知見と築造年代
—築造基盤面に遺存していた土器包含層—

近藤好和：『江家次第』にみる朝廷儀礼の式次第 (8)　大嘗会 (三)

〈訃　報〉

島津義昭：渡辺誠先生と九州 —曽畑・轟貝塚からはじまる韓国への関心—

〈図版解説〉

神保忠宏：滋賀県栗東市高野遺跡の発掘調査

近藤奈央：平安宮内裏跡の発掘調査

〈書　評〉

榎村寛之：木村大樹著『古代天皇祭祀の研究』

〈新刊紹介〉

南雲泰輔：角田文衛著 / 公益財団法人古代学協会編『角田文衛の古代学３　ヨーロッパ古代史の再構成』

野口孝子：詫間直樹編『新皇居行幸年表』

６．普及事業

（１）公開講座等

1）古代学講座

平成 23（2011）年より、新たな形でスタートした。少人数で楽しく受講できる内容であり、多くのリピーターに支えられている。大半が継続講座であり、単に講師の話を聞くだけにとどまらず、積極的な学びの場を提供している。令和４年度も新型コロナウイルス感染症対策を行い、前期（4 月～９月）に 11 講座、後期（10 月～３月）11 講座を開講した。

《令和４年度　前期講座》

・平安王朝の歴史と文化Ⅶ

講師：朧谷　寿　（同志社女子大学名誉教授・古代学協会理事長）　開講日：第１水曜日

平安京という風土のなかで展開される、王朝社会の政治の大きな流れの一方で、文化、宗教、人々の暮らし、そして今に息づく祭礼や年中行事が営まれた。京の地に刻み込まれたこれらの営みを通して王朝四百年の歴史を探る。

第１回　平安王朝の世界（29）
第２回　平安王朝の世界（30）
第３回　平安王朝の世界（31）
第４回　平安王朝の世界（32）
第５回　平安王朝の世界（33）

・『小右記』講読－平安貴族の日常に触れてみよう－

講師：野口孝子　（古代学講座講師）　開講日：第２水曜日

『小右記』の本文内容や、解釈に必要な知識などを講義形式で行うが、本文の一部は受講生の希望者により発表し、次いで質疑する形で行う。

第１回　治安３年閏９月 18 日条から始める。
第２回　承前
第３回　承前
第４回　承前
第５回　承前

・座学と現地散策で学ぶ遺跡発掘調査の成果

講師：梶川敏夫　（京都女子大学非常勤講師）　開講日：第２水曜日

長年にわたる膨大な発掘調査成果から見えてくる京都の歴史に秘められた史実を分かりやすく講義し、実際にその遺跡を訪れて臨地体験をする。

第１回　京都西方嵯峨野の遺跡
第２回　フィールドワーク⑮　「京都盆地西方の太秦・嵯峨野の遺跡」
第３回　遺跡復元図から見えてくる古代京都の元風景
第４回　平安京左京の里内裏と高級貴族邸
第５回　フィールドワーク⑯　「平安京左京の里内裏と高級貴族邸跡を訪ねて」

・『魏志』東夷伝を読む－倭人伝－

講師：田中俊明　（滋賀県立大学名誉教授）　開講日：第３水曜日

『魏志』東夷伝は、そのなかに倭人伝が含まれていることで広く知られており、『魏志』倭人伝を原文から読むことによって、三世紀の東北アジアのなかでの倭人の世界について考える。

第１回　　『魏志』東夷伝を読む 28・倭人伝を読む①

第２回　　『魏志』東夷伝を読む 29・倭人伝を読む②

第３回　　『魏志』東夷伝を読む 30・倭人伝を読む③

第４回　　『魏志』東夷伝を読む 31・倭人伝を読む④

第５回　　『魏志』東夷伝を読む 32・倭人伝を読む⑤

・斎王と斎宮をめぐる社会

講師：榎村寛之　(斎宮歴史博物館学芸員)　開講日：第３水曜日

歴史学研究、そして斎宮跡発掘調査による考古学的な情報など、斎宮についての様々なアプローチの成果を踏まえ、斎宮の歴史を追いかけながら斎宮イメージを 100 年ごとにまとめる。

第１回　７世紀　大来皇女と初期斎宮の発見

第２回　８世紀　聖武天皇の三人娘が生きた社会

第３回　９・10 世紀　在原業平と紫式部が見た斎宮・斎王

第４回　11 世紀　当子内親王と良子内親王の明暗

第５回　12 世紀　准三宮善子内親王とその姉郁芳門院

・行基菩薩の思想と行動

講師：千田　稔　（奈良県立図書情報館館長）　開講日：３回（4/15、6/17、9/30）

天平時代の僧　行基の足跡をたずねながら、行基という僧の思想と行動について考える。行基以降、行基を慕った僧侶たちの姿も追いながら、現代の日本社会の現実とも比較する。

第１回　僧尼令違反と行動―行基の足跡―

第２回　行基と聖武天皇―天皇が求めた心―

第３回　行基伝承と信仰―他者を救う心―

・京都の武士社会と承久の乱

講師：生駒孝臣　（花園大学文学部准教授）　開講日：第４水曜日

平安時代以降の京都の武士社会のあり方と、それが鎌倉幕府の成立や幕府と朝廷との関係を一変させた承久の乱によってどのような変化を遂げたのかを、摂津源氏や伊勢平氏、摂津渡辺党など具体的な武士・武士団の消長を取り上げて、最新の研究成果に基づきながら追究する。

第１回　白河・鳥羽院政と武士

第２回　伊勢平氏の盛衰

第３回　摂津源氏の消長

第４回　摂津渡辺党と公家社会

第５回　承久の乱と武士社会の変容

・日本考古学探究

講師：森岡秀人　（関西大学大学院非常勤講師）

開講日：第４水曜日

日本考古学の諸問題を取り上げ、論争と学説の動向などをテーマにする。

第１回　2021 年の日本考古学界を回顧する

第２回　関西大学博物館と飛鳥の庭、高松塚壁画（原寸）を見る（現地見学）

第３回　巨大古墳大山（仁徳陵古墳）　二回目発掘の詳解

第４回　高地性集落における青銅鏡の出現　先行伝来の謎を探る

第５回　寺沢論「新生倭国」像と森岡論「原倭国」像

関西大学博物館　高松塚古墳再現展示室

・和歌を読み解く（７）『後拾遺集』の女性歌人たち

講師：中　周子（大阪樟蔭女子大学名誉教授）　開講日：第４土曜日

第四番目の勅撰集『後拾遺集』の和歌を取り上げる。『後拾遺集』は和泉式部や、相模、赤染衛門、伊勢大輔、紫式部、清少納言等々、一条朝に活躍した女性たちの和歌が多く収められている。ところが、『後拾遺集』の評判は成立当時から芳しくなかった。そこで『後拾遺集』をめぐる諸問題を整理しながら、再評価を試みる。

第１回　『後拾遺集』の成立について

第２回　『難後拾遺』に見る批判

第３回　『後拾遺集』の歌人たち

第４回　『後拾遺集』の女性歌人の和歌

第５回　名歌鑑賞（希望者の発表）

・エジプト銘文学入門　総集編

講師：小山雅人 (古代学講座講師）　開講日：第４土曜日

古代エジプトの彫像や石碑などに残された、碑文ないし銘文を読む。

第１回　トトモセ３世のハトホール礼拝堂〔カイロ博物館〕①

第２回　トトモセ３世のハトホール礼拝堂〔カイロ博物館〕②

第３回　センウォスレ３世のモンチゥへの供儀〔ルーヴル博物館〕
　　セティ１世とハトホール女神〔王家の谷 17 号→ルーヴル博物館〕

第４回　ハシェプソーウェ女王の北のオベリスク〔カルナック神殿〕

第５回　ハシェプソーウェ女王の南のオベリスク〔カルナック神殿、壁の外〕

・墓制の歴史考古学－墓制から見た古代と中世のはざま－

講師：渡邊邦雄（関西大学非常勤講師）　開講日：第４土曜日

日本古代～中世の歴史を墓制という考古資料と、それに関係する関連分野の成果を用いて検討し、墓制から見た古代国家の意義を考える。

第１回　お墓の歴史―特に終末期古墳を中心として

第２回　お墓の歴史―古代以降

第３回　なぜ火葬なのか―火葬と土葬の墓制上の意義

第４回　律令国家と王朝国家

第５回　墓制は時代を語るのか―墓制から見た古代と中世のはざま

《令和４年度　後期講座》

・平安王朝の歴史と文化Ⅷ

講師：朧谷　寿　（同志社女子大学名誉教授・古代学協会理事長）　開講日：第１水曜日

前期の続き

第１回　平安王朝の世界（34）

第２回　平安王朝の世界（35）

第３回　平安王朝の世界（36）

第４回　平安王朝の世界（37）

第５回　平安王朝の世界（38）

・中世城館の歴史と構造

講師：中井　均（滋賀県立大学名誉教授）　開講日：第１水曜日

最新の研究成果による日本城郭の歴史的変遷について概説し、その構造を分析。また、最近注目された城館跡の発掘調査を紹介する。

第１回　鎌倉武士の館

第２回　南北朝の内乱による山城の出現

第３回　発達する戦国の山城

第４回　信長の城、秀吉の城

第５回　発掘された戦国の山城

・『小右記』講読－平安貴族の日常に触れてみよう－

講師：野口孝子　（京都小右記研究会主宰）　開講日：第２水曜日

『小右記』の本文内容や、解釈に必要な知識などを講義形式で行うが、本文の一部は受講生の希望者により発表し、次いで質疑する形で行う。

第１回　寛和元年（985）３月１日条から始める。

第２回　承前

第３回　承前

第４回　承前

第５回　承前

・座学と現地散策で学ぶ遺跡発掘調査の成果

講師：梶川敏夫（京都女子大学非常勤講師）　開講日：第２水曜日

2024 年の NHK 大河ドラマは紫式部を主人公とする「光る君へ」が放映される。発掘調査成果から見えてくるゆかりの地を中心とした講義と、フィールドワークで平安宮跡や平安京跡の源氏物語ゆかりの地を巡る。

第１回　紫式部の『源氏物語』と平安宮 (大内裏) 跡

第２回　フィールドワーク⑰ 「紫式部の『源氏物語』と平安宮 (大内裏) 跡」

第３回　京都市内の平安時代を代表する遺跡の調査成果

第４回　平安京跡の源氏物語ゆかりの地

第５回　フィールドワーク⑱ 「平安京跡の源氏物語ゆかりの地」

・『魏志』東夷伝を読む－倭人伝－

講師：田中俊明（滋賀県立大学名誉教授）　開講日：第２水曜日

『魏志』東夷伝は、そのなかに倭人伝が含まれていることで広く知られており、『魏志』倭人伝を原文から読むことによって、三世紀の東北アジアのなかでの倭人の世界について考える。

第１回　『魏志』東夷伝を読む 33・倭人伝を読む⑥　邪馬台国位置論１　方位

第２回　『魏志』東夷伝を読む 34・倭人伝を読む⑦　邪馬台国位置論２　里程

第３回　『魏志』東夷伝を読む 35・倭人伝を読む⑧　邪馬台国位置論３　総論

第４回　『魏志』東夷伝を読む 36・倭人伝を読む⑨

第５回　『魏志』東夷伝を読む 37・倭人伝を読む⑩

・平安貴族の暮らし－衣食住を探る－

講師：鳥居本幸代（京都ノートルダム女子大学名誉教授）

開講日：第３水曜日

紫式部や清少納言が生きた平安時代、貴族たちのくらしを衣・食・住の分野からアプローチする。

第１回　平安貴族の食卓

第２回　王朝の美男・美女

第３回　男性ファッション

第４回　女性ファッション

第５回　平安貴族の住まい

鳥居本幸代　講師

・三人の斎王から見た平安時代の王権

講師：榎村寛之 (斎宮歴史博物館学芸員)　開講日：第３水曜日

『伊勢物語』の斎王の恋、『源氏物語』の六条御息所のモデルが伊勢を目指した理由、光源氏のモデル、具平親王の娘はなぜルールを破った託宣を行ったのか。平安時代の斎宮をめぐる三つの事件とその背景を素材に、王権と斎宮の関係を再検討する。

第１回　『伊勢物語』の時代と斎王

第２回　斎宮女御の自覚と斎王

第３回　長元の託宣と神を語る斎王たち

第４回　第１回～３回の内容調整

第５回　神と語る斎王たち

・天皇陵研究の最前線

講師：山田邦和（同志社女子大学教授）　開講日：第３金曜日

日本古代史の重要テーマのひとつに陵墓研究がある。最新の研究成果に基づき、古代から近代までの陵墓の実態を明らかにしていく。

第１回　鳥羽離宮の天皇陵－白河・鳥羽・近衛天皇陵－

第２回　基壇付き八角墳の天智天皇陵

第３回　初期ヤマト政権の大王墓－崇神・景行天皇陵－

第４回　日本第二の巨大前方後円墳－応神天皇陵－

第５回　「陵寺」の成立－仁明天皇陵－

山田邦和　講師

・「日本考古学」の論点を知り尽くす

講師：森岡秀人（古代学協会客員研究員）　開講日：第４水曜日

考古学の面白さは、最新の発掘調査や観察研究で考え方などが日々進化すること。講師の近年の遺跡踏査や内部調査、遺構・遺物の形態研究・年代研究から、日本考古学の多くの論点を学ぶ。

第１回　倭人伝考古から見た「末慮国」のカメ棺・銅鏡

第２回　叡福寺北古墳は聖徳太子墓なのか

第３回　日本最古？淡路・隆泉寺銅鐸のもつ謎

第４回　畿内第Ⅴ様式の弥生土器と邪馬台国前史

第５回　列島北限地域の高地性集落の役割とは

・和歌を読み解く（８）『後拾遺集』の新風和歌

講師：中　周子（大阪樟蔭女子大学名誉教授）　開講日：第４土曜日

『後拾遺集』が一条朝の才媛たちと、彼女たちが仕えた皇后定子や中宮彰子の後宮を重視して編纂している点に注目する。さらに、曾根好忠や源順たち男性歌人の和歌に見る、三代集から転換する新風についても触れ、『後拾遺集』の再評価を試みる。

第１回　『後拾遺集』の編纂と女性歌人

第２回　一条朝の後宮に注目した撰歌（１）清少納言と紫式部
第３回　一条朝の後宮に注目した撰歌（２）皇后定子と中宮彰子
第４回　『後拾遺集』と和歌史の転換期
第５回　名歌鑑賞会、希望者の発表

・エジプト銘文学入門　総集編２
講師：小山　雅人　（エジプト学研究家）　　開講日：第４土曜日
年代を遡り、古代エジプト世界の基本が出来上がった〈古王国時代〉に挑戦する。決まり文句の繰り返しを読みながら、古王国時代に築かれたマスタバ巡りをしたいと思う。
第１回　アヌービスの恩恵
第２回　偽扉というもの
第３回　マスタバの中の夫と妻（１）
第４回　マスタバの中の夫と妻（２）
第５回　マスタバの中の夫と妻（３）

２）顕彰碑の設置及び除幕式

「此付近　藤原定家一条京極第跡」

設置場所：京都市立京極小学校正門横花壇内

（京都府京都市上京区染殿町 658）

除幕式

日時：令和 4 年 7 月 22 日　10：30 ～

来賓：京極小学校　足立素子校長

（公財）冷泉家時雨亭文庫

冷泉為人理事長

京極小学校正門横花壇内設置状況

3）歴史散策

・令和 4 年度　歴史散策「水無瀬野を歩く」

日時：令和 5 年 3 月 21 日 13：00 ～ 16：00

講師：山中　章（三重大学名誉教授・(公財) 古代学協会客員研究員）

清水みき（(公財) 古代学協会客員研究員）

参加人数：12 名

参加費：1000 円（資料代・傷害保険料込）

歴史散策 水無瀬野を歩く　散策風景（左：写真中央は山中章講師

4）公開講演会

◆ 2022 年度第 1 回公開講演会

日　時：令和 4 年 8 月 28 日　13 時～ 16 時 40 分

会　場：京都府京都学・歴彩館大ホール（京都市左京区下鴨半木町 1-29）

参加人数：155 名

参加費：1000 円（資料代含む）

テーマ：京都の天皇陵

＜講　演＞

山田邦和（同志社女子大学教授・古代学協会理事）「平安時代初期の天皇陵―桓武天皇陵を中心に―」

「京都の天皇」公開講演会の様子

座談会の様子

高木博志（京都大学人文学研究所教授）「近代天皇制と泉涌寺陵墓群」
＜座談会＞
高木博志、山田邦和

◆ 2022 年度第 2 回公開講演会（共催：京都府立京都学・歴彩館）
　日時：令和 5 年 3 月 26 日 13 時～ 16 時
　会場：京都府立京都学・歴彩館大ホール（京都市左京区下鴨半木町 1-29）
　参加人数：98 名
　参加費：500 円（資料代含む、古代学協会正会員無料）
　テーマ：『伊勢物語』と馬
＜講　演＞
山中　章（三重大学名誉教授・(公財) 古代学協会客員研究員）
　　「古代宮都における馬寮を探る―発掘された主馬寮―」
山本登朗（関西大学名誉教授）　「『伊勢物語』と「右近の馬場」」
司会：清水みき（(公財) 古代学協会客員研究員）

山中　章　先生

山本　登朗　先生

（２）広報物の出版

１）『初音』12（令和４年８月 30 日発行）

・令和３年度事業報告

２）古代学協会だより『土車』

第 144 号（令和４年６月 20 日発行）

第 145 号（令和４年９月 20 日発行）

第 146 号（令和４年 12 月 20 日発行）

（３）資料等の活用・管理・整理

１）所蔵資料の活用

当協会では、創立以来、研究活動の為、文献・考古学資料を収集してきた。資料は一部を京都府京都文化博物館に寄託し、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には資料調査等に係る閲覧や貸出及び掲載許可申請がある。

令和４年度資料貸出等

利用形態	資料名	数	申請者	使用目的等
写真使用	大島本源氏物語　全体写真	1	(株)三省堂	高等学校用教科書『新　文学国語』
出陳	瓦経（伊勢・小町塚経塚出土）・石経（京都市東山区将軍塚付近出土）		京都文化博物館	「信仰の美」（会期 12 月 17 日～2 月 5 日）
出陳	近江国大国郷墾田売券 高向依重文書紛失状 清原長谷丸直米請取状 大内裏図考証（清書本）巻十一之下、附録巻第五之下（第六三冊）		国立歴史民俗博物館	「いにしえが、好き！―近世好古古図録の文化誌―」（会期 3 月 7 日～5 月7日）
写真使用	紫式部日記絵詞 紫式部日記絵詞断簡		上原作和	「ある紫式部伝・第三稿－日記の成立過程と読者圏、道長の妾説の現在」 （「物語研究会」刊行　機関紙『物語研究』23号）

２）図書資料の収集・活用

古代学協会がこれまで刊行してきた刊行物、角田文衛博士より寄贈された、国内外の貴重な図書、研究活動に必要な基礎図書及び、国内外から交換及び寄贈された最新の定期刊行物を一部公開している。

角田文衛博士から協会に寄贈された書籍については、整理され次第順次協会ホームページに一覧表を掲載する予定である。

３）角田文衛博士遺贈資料の整理

角田文衛博士の御遺族から寄贈された、書簡・写真・研究資料等を公開すべく整理作業を進めている。

古代学協会研究報告第 15 輯『角田文衛博士遺贈資料調査報告－書簡集－』（令和元年 10 月）の刊行に続き、令和 5 年度に写真類の調査報告書の刊行を予定している。

・その他

（1）ホームページ（https://kodaigaku.org）（平成 19 年 9 月開設、令和 4 年 7 月リニューアル）

・情報公開：事業報告（平成 25 年度～）、役員名簿・定款・一部規程類、出版物・発掘調査・科学研究費助成事業に関わる規程

・所蔵資料一覧

・賛助会員入会案内

・角田文衛博士の紹介

・『古代文化』：投稿規定、投稿案内、正会員案内、総目次、最新巻案内

・『土車』（創刊号～最新号）

・公開講演会案内

・古代学講座案内

・その他随時情報を更新

（2）公式 Facebook （平成 24 年 9 月 22 日開始）

協会の活動に関する告知とともに、幅広いファン層の拡大を目的としている。

・古代学講座および講演会案内

・その他随時情報提供

所蔵資料一覧

1. 文献・絵画・彫刻等の資料

部類	資料名等		点数・員数	時代	
古文書	太政官謹奏写（天平宝字二年）		1・1紙	鎌倉	※
	近江国大国郷墾田立券文（延暦十五年）		1・1幅	平安	※
	大和国真菅老女墾田立券文写（延暦十九年）		1・1幅	江戸	※
	勅旨所牒（延暦八年）		1・1幅	鎌倉	※
	七条令解（延長七年）		1・1幅	平安	※
	七条令解（天暦三年）		1・1幅	平安	※
	七条令解（天元二年）		1・1幅	平安	※
	東大寺返抄（長保二年）		1・1幅	平安	※
	太政官牒（応徳三年）		1・1幅	平安	※
	僧長俊榲槫請文（天治二年）		1・1幅	平安	※
	法隆寺伝教院下文（天治二年）		1・1幅	平安	※
	畠直米請取状（長承二年）		1・1紙	平安	※
	大和国広瀬荘白米上納日記（長承～久安年間）		1・1幅	平安	※
	太政官牒（仁平元年）		1・1幅	平安	※
	高向依重事発日記（応保元年）		1・1紙	平安	※
	巻数案文書（嘉応二年）		1・1幅	平安	※
	勧修寺西院牒（寿永元年）		1・1紙	平安	※
	後白河院院宣（建久三年）		1・1幅	鎌倉	※
	沽却状（建久三年）		1・1幅	鎌倉	※
	北白河院陳子自筆御消息（寛喜三年）		1・1幅	鎌倉	※
	僧空寂書状（嘉禎四年）		1・1幅	鎌倉	※
	京・上京区下柳原町屋文書		61・56冊＋5袋	江戸	※
	山城国葛野郡西京村検地帳（延宝七年）		1・1冊	江戸	※
	太政官謹奏（文政元年五月二十八日）		1・1通	江戸	
典籍	『明月記』建保元年正月十六日条断簡　付妓女図	藤原定家筆	1・1幅	鎌倉	※
	『兵範記』切（仁安二年閏七月二十五日条）	藤原定家筆	1・1幅	鎌倉	
	魚魯愚鈔（明応三・五年写）	三条西実隆筆	10・10冊	室町	※
	続日本後紀巻七・八		1・1冊	江戸	※
	本朝皇胤紹運録		1・1冊	江戸	※
	大内裏図考証　付絵図	裏松固禅編	70・69冊＋1巻	江戸	※
	院宮及私第図	裏松固禅編	2・2巻	江戸	※
	拾芥抄（活字本）		6・6冊	江戸	※
	京兆図（享和三年写）		1・1図	江戸	※
	清獬眼抄（宝暦十一年写）		1・1冊	江戸	※
	聖蹟図志（安政元年）		2・2冊	江戸	※
	首註陵墓一隅抄（安政元年）		1・1冊	江戸	※
	集古浪華帖第一～五		5・5冊	江戸	※
	宇多天皇記略写本		1・1冊	江戸	
	経信卿記写本		2・2冊	江戸	
	三長記写本		2・2冊	江戸	
	舞楽図（元版文政六年刊）		2・2冊	近代	
	尚古図録		1・1冊	近代	
	輿車図考附図		2・2冊	近代	
地図・絵図類	平安京条坊図	伊藤東涯編	1・1幅	江戸	※
	京程図		1・1図	江戸	※
	左京図		1・1図	江戸	※
	大内裏図		1・1図	江戸	※
	内裏絵図（大工見取図）		1・1図	江戸	※
	宮殿図	紀宗直自筆	1・1図	江戸	※
	神泉苑差図写（長禄三年）		1・1図	江戸	※

部類	資料名等		点数・員数	時代	
	京大絵図（元禄十二年）		1・1図	江戸	※
	洛中洛外図（享保六年頃写）		2・2図	江戸	※
	禁裏御用水筋並小山郷用水図		1・1図	江戸	※
	下鴨地検図（文化二年）		1・1図	江戸	※
	葛野郡西七・八条村図		1・1図	近代	※
	元治元年七月十九日京都大火之略図版画		1・1枚	江戸	
	山城国愛宕郡図版画		1・1図	江戸	
	大内裏惣図（天）		1・1図	江戸	
	八省院大図（地）		1・1図	江戸	
	御即位庭上之図		1・1図	江戸	
	大和山陵図（水木コレクション）		1・1巻	江戸	
	道澄寺鐘銘拓本(水木コレクション)		1・1巻	近代	
文学書	源氏物語（青表紙本）〔**重要文化財**。通称「大島本源氏物語」〕	飛鳥井雅康ほか筆	53・53冊	室町	※
	伊勢物語（天福本）	伝飛鳥井雅親筆	1・1帖	室町	※
	紫式部日記断簡		2・1巻※＋1片	南北朝	(※)
	紫式部集（安行君遺本）		1・1冊	江戸	※
	水鏡	伝寂蓮筆	1・1巻	室町	※
	栄花物語巻七～四十		14・14冊	江戸	※
聖教	大般若経巻第五百八十（永久三年）		1・1巻	平安	※
	大般若経巻第百三十五（久寿二年）		1・1帖	平安	※
絵画	鳥羽天皇宸影		1・1幅	平安	※
	承安五節図（寛政元年写）		1・1巻	江戸	※
彫刻	地蔵菩薩木像(水木コレクション)		1・1躰	平安	
その他	三上参次自筆書簡		1・1通	近代	
	黒板勝美自筆書簡		1・1通	近代	
	水木家宛書簡類（水木コレクション）		262・262通	近代	
	中村直勝自筆書簡		1・1通	近代	
	黒板勝美一行書		1・1幅	近代	
	内藤湖南漢詩		1・1幅	近代	
	紫野閑記（新村出筆ノート。付八木勇一書簡）		1・1冊	近代	

※は京都文化博物館　◎は大坂市立美術館寄託

2．考古資料

	資　料　名	時代	点数	備　　考	
1	太田コレクション （丹生台地出土石器）		319	石器、銅剣、和鏡	※
2	大分県丹生遺跡出土旧石器	旧石器時代	5	石器	◎
3	円筒上層式土器	縄文時代	1	青森県天間林村二ツ森遺跡出土 角田文衛氏昭和13年発掘	
4	土偶	縄文峙代晩期	1	埼玉県岩槻市真福寺遺跡出土	※
5	埴輪（男子頭部）		1	関東地方出土	※
6	埴輪（頭部）		1		
7	馬形埴輪	6世紀	1	出土地不詳　高76cm	※
8	陶製骨壺	奈良時代	1	宇治市木幡出土	※
9	皇朝十二銭		8	和同開珎、万年通宝、神功開宝、冨寿神宝、承和昌宝、長年大宝、貞観大宝、延喜通宝	
10	松喰鶴鏡	平安時代	1		※
11	貨幣模造品		1	開基勝宝（岩倉精密鋳造）	※
12	鬼瓦（複製）	平安時代	1	原資料　平安宮朝堂院跡出土	※
13	貨幣模造品		1	開基勝宝	※
14	中国古銭集成		120	寛永通宝含む	
15	韓国慶州出土軒丸瓦	新羅時代（8世紀）	1		
16	タンザニア・ オルドヴァイ遺跡出土石器類		10		※
17	タンザニア出土石器類		5		※
18	ケニア出土石器類		1		※
19	フランス旧石器コレクション	前期旧石器～ 後期旧石器時代	61		※
20	デンマーク石器コレクション	中石器～ 青銅器時代	32		※
21	デンマーク出土石器類 （北欧新石器）		20		※
22	デンマーク出土石器類 （北欧新石器）		26		※
23	ミノス文化青銅器		3	短剣、銀斧、銅鍬か	
24	ローマ時代貨幣		19	金貨、銅貨	※
25	ユーリナ・ドムナ銀貨		1		
26	ユーリナ・ドムナ頭部像		1	大理石製	
27	金倉英一氏エトルリア、 ローマ文化コレクション		70		
28	エジプト・アコリス遺跡 発掘調査　出土品一括		30	土器、コプト織り断片等	
29	パピルス写本片葉 コプト文字法律書断簡		1		
30	シリア・パルミラの石器	中期旧石器～ 新石器時代	19		
31	ルリスタン青銅器		11	銅剣、銀斧、腕輪、ﾍｱﾋﾟﾝ、人形、動物像	
32	パキスタン・ソーアン遺跡 出土の旧石器コレクション	旧石器時代前期（70～50万年前）	6		
33	仏頭		1	ガンダーラ出土か	※
34	骨壺	奈良時代末期	1	京都府乙訓郡長岡町井口出土	
35	灰釉壺	平安時代前期	1	京都市山科区御陵安祥寺付近出土	
36	銅製経筒	建久2（1191）年銘	1	福岡県太宰府町大字太宰府出土	
37	水木要太郎蒐集古瓦類	飛鳥時代～ 平安時代中期	15	古瓦14（単弁蓮華文軒丸瓦・飛鳥寺出土）等、瓦経1（伊勢市小町塚経塚出土）	

令和４年度　交換・受贈逐次刊行物一覧

青山大学史学会『史友』
青山学院大学日本文学会『青山語文』
青山学院大学日文院生の会『緑岡詞林』
青山学院大学文学部史学研究室『青山史学』
岩手史学会『岩手史学研究』
大倉精神文化研究所『大倉山論集』
大阪大谷大学歴史文化学科
『歴史文化研究』『志学台考古―年代・産地・分　析等―』『歴史文化論叢』
大阪教育大学歴史学研究室『歴史研究』
大阪商業大学商業史博物館『紀要』
大阪商業大学比較地域研究所『地域と社会』
大阪大学国語国文学『語文』
大阪大学大学院文学研究科『待兼山論叢』
大阪府立大学人間社会学部言語文化学科
『言語文化学研究　日本語日本文学編』
大阪府立大学大学院人間社会学研究科人間科学専攻『大阪府立大学紀要　人間科学』
大妻女子大学国文学会『大妻国文』
学習院大学東洋文化研究所『東洋文化研究』
学習院大学史料館『史料館紀要』
鹿島学術振興財団『年報　2021 年度』
神奈川大学日本常民文化研究所『民具マンスリー』
神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター年報　非文字資料研究』『非文字資料研究』
金沢大学人文学類考古学研究室『金沢大学考古学紀要』
元興寺文化財研究所『研究報告』
関西大学史学・地理学会『史泉』
関西学院大学史学会『関西学院史学』
九州大学大学院人文科学研究院『史淵』
京都産業大学日本文化研究所『所報　あふひ』『紀要』
京都橘大学大学院『研究論集　文学研究科』
京都府埋蔵文化財調査研究センター
『京都府埋蔵文化財情報』
京都府立京都学・歴彩館『京都学・歴彩館紀要』
宮内庁正倉院事務所『正倉院紀要』
宮内庁書陵部『書陵部紀要〔陵墓篇〕』
熊本史学会（熊本大学文学部内）『熊本史学』
藝林會『藝林』
皇學館大学研究開発推進センター『紀要』『年報』
皇學館大學史學会『皇學館史學』
皇學館大學人文会『皇學館論叢』
考古学研究会『考古学研究』
神戸学院大学人文学部『紀要』
古代オリエント博物館『紀要』
古代学研究会『古代学研究』
「古代史の海」の会　　『古代史の海』
駒澤大学大学院史学会『駒澤大学大学院史学論集』
駒沢女子大学『日本文化研究』
史学会『史学雑誌』
史学研究会(京都大学大学院文学研究科)『史林』
滋賀県立大学人間文化学部『人間文化』
滋賀県立安土城考古博物館『年報』『紀要』
信濃史学会『信濃』
上智大学史学会『上智史學』
続日本紀研究会『続日本紀研究』
清泉女子大学『清泉女子大学紀要』
専修大学学会『専修人文論集』
崇城大学芸術学部『　　研究紀要』
大正大学史学会『鴨台史学』
大東文化大学歴史文化学会『大東史学』
大東文化大學漢學會『大東文化大學漢學會誌』
たたら研究会『たたら研究』
地中海学会『地中海学研究』
地方史研究協議会『地方史研究』
中央大学文学部『紀要（史学)』
朝鮮学会『朝鮮学報』

筑波大学人文社会科学研究科歴史・人類学専攻
『筑波大学　先史学・考古学研究』
筑波大学大学院人文社会科学研究科文藝・言語専攻『文藝・言語研究　文藝編』
鶴見大学文化財学会『文化財学雑誌』
帝塚山大学文学部『帝塚山大学文学部紀要』
天理参考館『天理参考館報』
天理大学『学報　語学・文学・人文・社会・自然編』
東京大学史料編纂所『研究紀要』『所報』
東京文化財研究所『美術研究』
同志社大学人文学会『人文學』
同志社大学文化学会『文化学年報』
東北学院大学学術研究会『東北学院大学論集　歴史と文化』
東北学院大学東北文化研究所『紀要』
東北大学大学院文学研究科日本思想史研究室『日本思想史研究』
東北大学大学院文学研究科『研究年報』
東北大学東北アジア研究センター『東北アジア研究』
『東北大学アジア研究センター叢書』
東洋史研究会『東洋史研究』
東洋大学『東洋大学文学部紀要（史学科篇）』
東洋大学白山史学会『白山史学』
東洋文庫『東洋学報』
読史会『お茶の水史学』
徳島文理大学文学部『徳島文理大学　文学論叢』
徳島文理比較文化研究所『年報』
長野県考古学会『長野県考古学会誌』
名古屋市博物館『研究紀要』
名古屋平安文学研究会『会報』
『並木の里』の会『並木の里』
南山考古文化人類学研究会『南山考人』
新潟史学会『新潟史学』
日本印度学仏教学会『印度學佛教學研究』
日本オリエント学会『オリエント』
奈良大学文学部文化財学科『文化財学報』
奈良文化財研究所『紀要』『奈文研論叢』
奈良女子大学史学会『寧楽史苑』
日本海事史学会『海事史研究』
日本史研究会『日本史研究』
日本西洋史学会『西洋史学』
日本歴史学会『日本歴史』
花園大学史学会『花園史学』
東アジアの古代文化を考える会同人誌分科会『古代文化を考える』
平等院『鳳翔学叢』
広島史学研究会『史学研究』
文化史学会（同志社大学文学部内）『文化史学』
平凡社（神奈川大学日本常民文化研究所編集）『歴史と民俗』
法政大学史学会『法政史学』
法政大学文学部『紀要』
（公財）北海道埋蔵文化財センター『調査年報　令和４年度』
三田史学会（慶應義塾大学文学部内）『史學』
武蔵野大学国文学会『武蔵野日本文学』
明治大学文学部考古学研究室『考古学集刊』
立正大学史学会『立正史学』
龍谷史学会『龍谷史壇』
龍谷大学大学院文学研究科日本史専攻『龍谷大学日本古代史論集』
龍谷大学文化遺産研究会『文化遺産研究』
早稲田大学會津八一記念博物館『館研究紀要』
早稲田大学大学院教育学研究科『紀要』
早稲田大学国文学会『国文学研究』
早稲田大学史学会『史観』
早稲田大学美術史学会『美術史研究』

〈海外〉

中国　敦煌研究院『敦煌研究』

台湾　国立台湾大学芸術史研究所『美術史研究集刊』

韓国　忠南大学校百済研究所『百済研究』 *National Institute of Koren History*

ドイツ　DES DEUTSCHEN ARCHÄOLOGISCHEN INSTITUT, *MITTEILUNGEN DES DEUTSCHEN ARCHÄOLOGISCHEN INSTITUTS RÖMISCHE ABTEILUNG* RÖMISCH-GERMANISCHE KOMMISSION DES DEUTSCHEN ARCHÄOLOGICHEN INSTITUTS, *GERMANIA; BERICHT DER RÖMISCH-GERMANISCHEN KOMMISSION*

トルコ　Turkish Historical Society, *BELLETEN*

フランス　ACADÉMIE DES INSCRIPTIONS & BELLES-LETTRES, *COMPTES RENDUS DES SÉANCES DE L'ACADÉMIE DES INSCRIPTIONS & BELLES-LETTRES École française d'Extrême-Orient, Paris, BULLETIN DE L'ÉCOLE FRANÇAISE D'EXTRÊME-ORIEN*

ポーランド　SOCIENTIFIC LIBRARY, *FOLIA QUATERNARIA*

イタリア　GIORGIO BRETSCHNEIDER EDITORE, *STUDI ETRUSCHI*

公益財団法人 古代学協会　令和4年度年報

発　行　日：令和5（2023）年8月31日
編集・発行：公益財団法人　古代学協会
〒604-8131
京都市中京区三条通高倉西入ル菱屋町48
電　話　（075）252-3000番
ＦＡＸ　（075）252-3001番
E-Mail　paleo-j@kodaigaku.org
https://www.kodaigaku.org